議事　1
資料－1

東高島駅北地区の景観形成について

CONTENTS -01

過去の経緯と本日の審議事項 -02

今回の都市美対策審議会における形態意匠に関する審議内容 -03

今後のまちづくりの進め方 -04

01 | 本地区の概要 -05

東高島駅北地区の位置及び規模
上位計画
東神奈川駅から東高島駅北地区までの歩行者動線
神奈川台場跡・神奈川宿歴史の道
土地区画整理事業
地区計画

02 | ランドスケープ計画の基本方針 -14

まちづくりのコンセプト
東高島駅北地区の変遷
ランドスケープコンセプト
ランドスケープ計画の主要素
広場・遊歩道の整備方針
広場・遊歩道のアクティビティイメージ
まちに開かれたオープンスペース
地上階・2Fの動線計画

03 | 景観イメージ -23

鳥瞰イメージ
形態意匠に関する審議内容と該当する箇所
コミュニティ広場
ウェルネス広場
キャナルテラス
キャナルゲート
マーケットドック
歴史の道
歴史の広場
グリーンサークル
パース視点一覧

過去の経緯と本日の審議事項

都市美①～③

【審議内容】
・建物や広場の配置
・スカイラインの形成
・外観デザインの考え方
・容積配分の考え方

【審議結果】
・地区全体の空間イメージ、委員の意見を反映した地区計画案の提示を行い、改めて審議いただく。

都市美④～⑥

【審議内容】
・地区全体の空間イメージ
・地区計画案（形態意匠の制限）

【審議結果】
・地区計画案（形態意匠の制限）について了解を得た。
・具体的な広場、歴史、水辺などの活用については設計段階に応じて報告を行う。

都市美⑦（前回）

【報告内容】
区画整理の期間延伸に伴い設計が遅れることと合わせて下記内容を報告
・想定スケジュール
・形態意匠の認定に向けた検討体制
・エリマネの検討状況

【報告結果】
・基本設計前に歴史、水辺などのエリア特性を踏まえた広場などの空間構成、建築デザインのコンセプトや考え方について提示する。

都市美⑧（今回）

【審議内容】
・広場及び建物低層部のランドスケープの計画について
（地区計画の形態意匠の制限の認定に関する審議）

年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	…	2026年度
景観審査部会	地区計画（形態意匠制限）の策定時の審議										形態意匠の制限の審議
	都市美①（審議）	都市美②（審議）	都市美③（審議）			都市美④（審議）	都市美⑤（審議）	都市美⑥（報告）	都市美⑦（報告）		**都市美⑧（審議）**
											基本設計
都市計画関係			区画整理・地区計画（基盤）決定					**地区計画（地区整備計画）決定**			
			都市計画手続き					都市計画手続き			
工事関係		アセス手続き						区画整理工事（前回報告時）			
					組合設立			区画整理工事（2027年度末まで）			

今回の都市美対策審議会における形態意匠に関する審議内容

地区計画抜粋

建築物等の形態意匠の制限	1　建築物の外壁の色彩は、マンセル表色系で次に掲げるものを基調とするものとする。 (1)　有彩色のうち色相が赤（R）系、黄赤（YR）系又は黄（Y）系（1Rから5Y）で明度4以上かつ彩度6以下のもの (2)　有彩色のうち色相が赤紫（RP）系（1RPから10RP）で明度4以上かつ彩度3以下のもの (3)　有彩色のうち色相が黄（Y）系又は黄緑（GY）系（6Yから5GY）で明度4以上かつ彩度3以下のもの 2　その高さが60mを超える建築物は、次に掲げる事項に適合するものとする。 (1)　高さが20mを超える部分の外壁及び頭頂部は、統一感のある景観を形成するため、素材、意匠、色彩等を揃えるものとする。 (2)　高さが20mを超える部分は、建築物による圧迫感の軽減を図るため、外壁の色彩の明度を上部に向かって徐々に高めるとともに、頭頂部及び外壁の側端部を透過性のある素材とするものとする。 3　建築物の次に掲げる部分には、屋外から建築物内部の活動や賑わいが望めるように、開口部又はテラスを設けるものとする。ただし、住宅等又は自動車車庫その他の専ら自動車若しくは自転車の停留若しくは駐車のための施設（誘導車路、操車場所及び乗降場を含む。）の用途に供する部分を除く。 (1)　遊歩道1に面する1階及び2階部分 (2)　広場1又は広場2に面する1階及び2階部分 (3)　広場4に面する1階部分で、道路からの水平距離が16m以内の部分 4　建築物は、地区内の視認性及び回遊性を高めるため、次に掲げる事項に適合するものとする。 (1)　広場1、広場2、津波避難デッキへ通ずる階段で広場4の西側端部に面するもの並びに広場1又は広場2に面する建築物の広場1又は広場2に面して設ける1階及び2階の開口部と広場4の西側端部の間に見通しを阻害するものを設けないものとする。 (2)　広場4の西側端部と東側端部の間に通行及び見通しを阻害するものを設けないものとする。ただし、用途上、機能上やむを得ないと市長が認める場合は、この限りでない。 (3)　区画道路3の主要な道路に接する部分と広場4の西側端部の間に見通しを阻害するものを設けないものとする。 5　高さが31mを超える建築物の部分は、当該部分の鉛直面に投影した水平方向の長さを70m以下とするものとする。 6　建築物の壁面による圧迫感を軽減するため、柱等のデザイン、色彩等によって壁面を分節するものとする。 7　建築物の遊歩道1に面する低層部は、周辺市街地とのボリューム差を感じさせないよう、周辺市街地からの連続性やボリューム感の軽減に配慮するものとする。 8　デッキ広場の運河に面する手摺の構造は、水辺の眺望を確保するため、利用者の通行の安全に支障がない範囲で、手摺子の間隔を広げ、又は透過性のある素材とするものとする。 9　遊歩道1とデッキ広場の賑わいの連続性を確保するため、遊歩道1からデッキ広場につながる階段を視認性に配慮した位置に設けることで、積極的な歩行者の誘引を図るものとする。 10　屋外に設ける建築設備等（太陽光発電設備及び太陽熱利用設備を除く。）は、道路及び地区施設から望見されないように配置し、又はパラペット若しくは目隠し壁等、目隠しとなるものを当該設備の周囲に設置するものとする。 11　屋外広告物は、地区の景観を阻害しないよう次に掲げる事項に適合するものとする。 (1)　屋外広告物（自己の名称、自己の事業若しくは営業の内容で独立文字・マーク等の組合せのもの又は管理上必要な事項を表示するものを除く。）は、建築物の高さ20mを超える部分には設けないものとする。 (2)　建築物の屋上に広告物を設けないものとする。ただし、その高さを20m以下とした建築物の屋上に設けるものはこの限りでない。 (3)　屋外広告物の照明は、内照式やバックライト式を主体とし、光源が露出したもの又は点滅するものは避けるものとする。 12　主要な道路等から2m以内の範囲に設ける街灯、サイン、ベンチ等の工作物は、周囲の建築物との色彩の統一を図るなど、地区全体の景観に配慮したものとする。ただし、道路又は公園内に設置するものはこの限りでない。

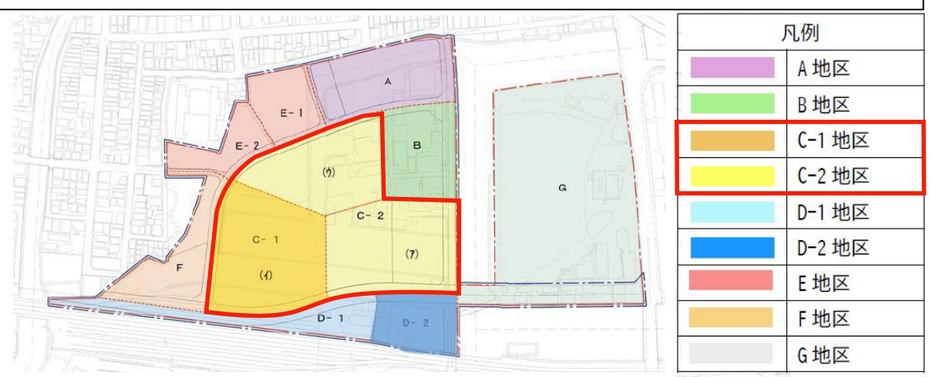
今回の都市美審（第8回）での審議内容は、
広場・広場と建築物の低層部に関わる4項目とします。

その他項目も含めた形態意匠全項目についてのご意見は、
次回(第9回)の審議にていただきたいと考えています。

今後のまちづくりの進め方

現時点想定スケジュール

		2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	～	2033年度以降
外構設計		ランドスケープデザイン・歴史的資源の保全活用検討・広場活用方法検討					
建築設計	C-1地区	反映・検討 → 反映・検討 → 反映 → 形態意匠制限の認定					
	C-2地区	反映・検討 → 反映・検討		反映・検討 → 反映 → 形態意匠制限の認定			
建築工事	C-1地区			工事着工	●供用開始		
	C-2地区						工事着工
都市美対策審議会関係		**都市美対策審議会（今回）** ※「建築物等の形態意匠の制限」のうち低層部関連項目を審議案件として開催	**都市美対策審議会** ※「建築物等の形態意匠の制限」の全項目に関する審議 **都市美対策審議会**	**都市美対策審議会** ※C-1地区形態意匠制限の認定に向けた開催	**都市美対策審議会** ※C-2地区形態意匠制限の認定に向けた開催		



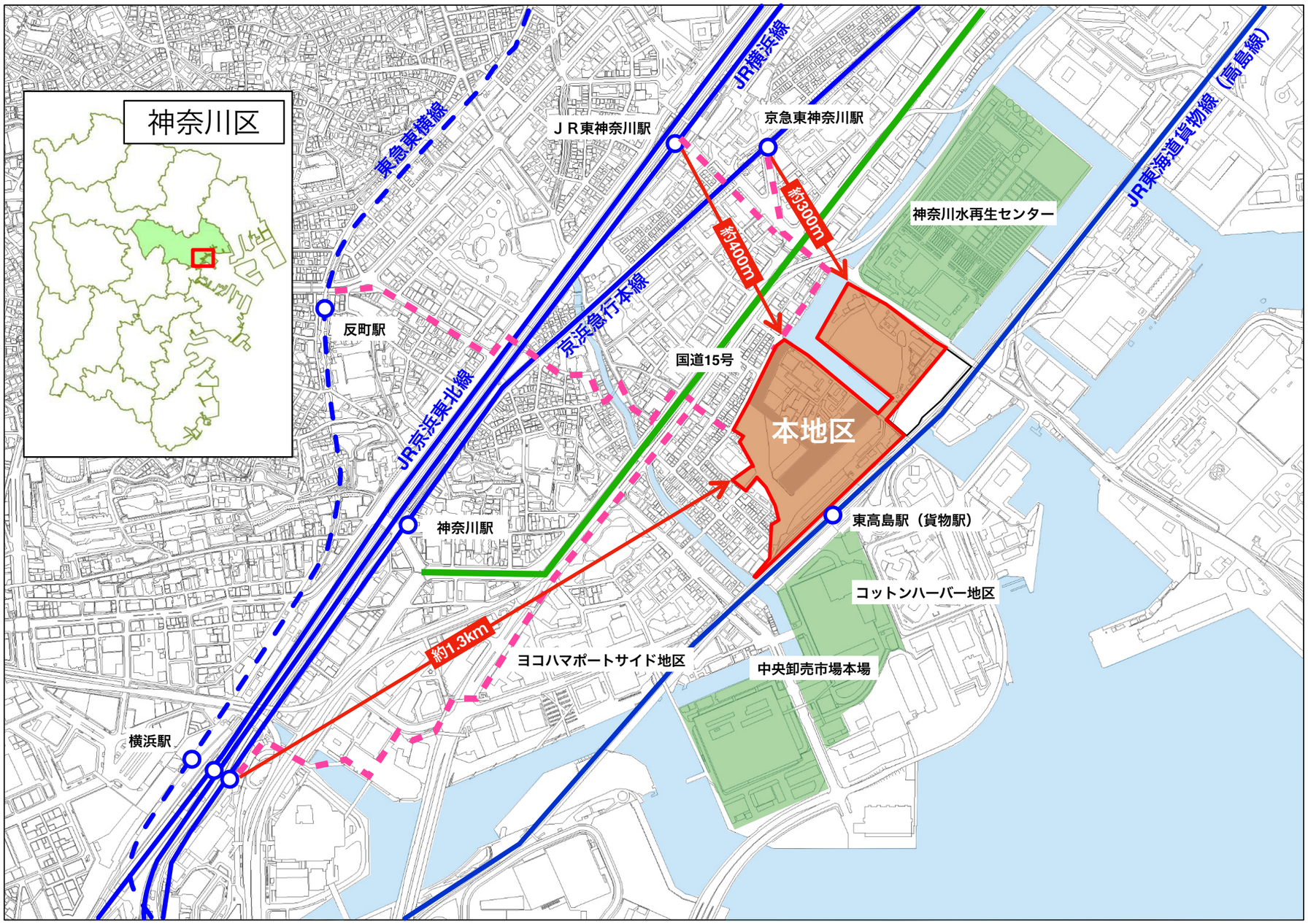
※C-1地区、C-2地区の位置図

01

本地区の概要

東高島駅北地区の位置及び規模

本地区（東高島駅北地区）は、横浜駅から約1.3km、ＪＲ京浜東北線・横浜線東神奈川駅から約400m、京浜急行本線京急東神奈川駅から約300mの場所に位置しています。
小規模な工場や遊休化した水域などの土地利用となっており、道路をはじめとする都市基盤が脆弱な地区となっていました。



N

■所在地

横浜市神奈川区神奈川一丁目、神奈川二丁目、
千若町及び星野町地内

■規模

約10.3ha

駅からの歩行者の主要な動線

上位計画

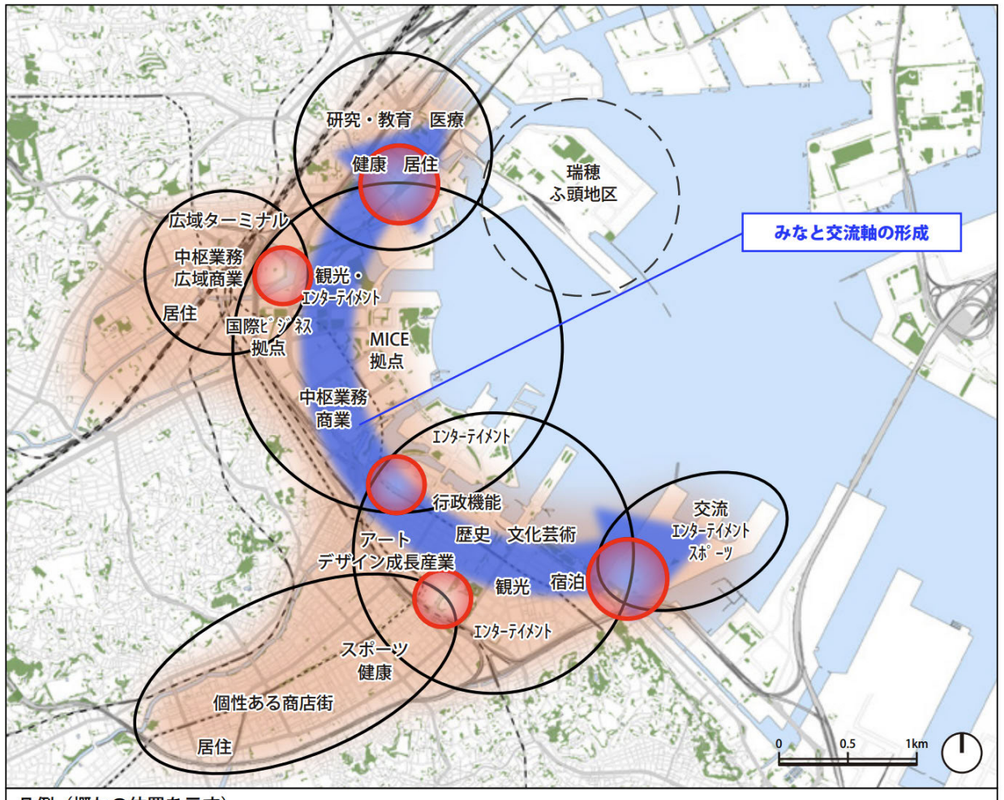
当地区は、上位計画においてまちづくりの方針や都市機能の導入が示されています。
上位計画に示されている東神奈川臨海部周辺地区の拠点性向上や、都心臨海部全体における魅力増進に資する都市基盤整備及び都市機能導入を推進していくことが重要です。

都心臨海部再生マスタープラン（H27年）

当地区は東神奈川臨海部周辺地区として都心臨海部５地区に位置付けられており、本地区の機能としては、研究・教育・医療・健康・居住を割り当てられています。

それぞれの地区の魅力をつなぎ合わせる「みなと交流軸」の形成と、「地区の結節点」における連携強化を重点的に進め、都心臨海部５地区の一体的なまちづくりを掲げています。

都臨海部の機能配置とみなと交流軸・結束点の配置イメージ



横浜市都市計画マスタープラン・神奈川区プラン（H31年）

新たな都心の拠点形成に向けて、水域の一部埋立及び土地区画整理事業等の都市基盤整備と共に、医療、健康、商業及び居住機能等を集積させ、都心にふさわしい土地の高度利用を図り、総合的な地域の再編整備を推進します。また、横浜駅周辺での大雨に備え、ポンプ場の整備を行います。

整備にあたっては、周辺地域の環境・景観に配慮した計画を推進します。神奈川台場跡については、歴史的資産として保全・活用する計画を進めます。

地域別計画(横浜都心)



上位計画

東神奈川臨海部周辺地区再編整備計画（H16年）

本計画において、鉄道駅を中心に都市機能が集積している既成市街地と、新たな土地利用が期待される臨海部との連携を強化するため、「東神奈川まち・海軸」を地域レベルの都市軸として設定してます。

当地区は東神奈川まち・海軸上のゾーンにおいて「環境再生型都市整備ゾーン」に割り当てられています。運河に囲まれた個性ある環境資源や鉄道駅へのアクセス利便性を活かし、基盤整備とあわせた新たな拠点地区の形成を促進します。

就業空間や居住空間が融和した魅力的な複合都市空間への再編整備を誘導します。また、地区の歴史的資源を生かした魅力ある都市空間を創出することを求められています。

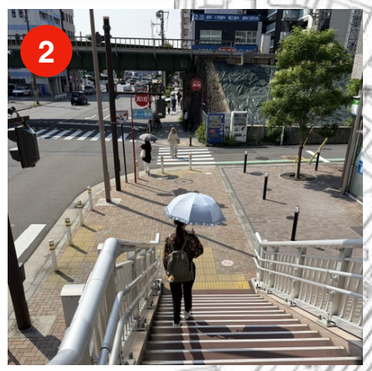
「東神奈川まち・海軸」の形成に寄与する地区の骨格となる道路整備や地区の一体性・アクセス性を向上する地区内の東西道路の新設検討を行うとともに、広域の歩行者ネットワークに資する歩行者回遊空間を形成することが整備方針として掲げられています。



東神奈川駅から東高島駅北地区までの歩行者動線

ＪＲ東神奈川駅から２階レベルの駅前歩行者デッキを通じて、階段あるいはエレベーターで地上に下りた後、歩道を通行し国道15号に向かって進みます。
エレベーターのある歩道橋により国道15号を横断し、国道15号沿いの歩道を通じて本地区まで向かいます。

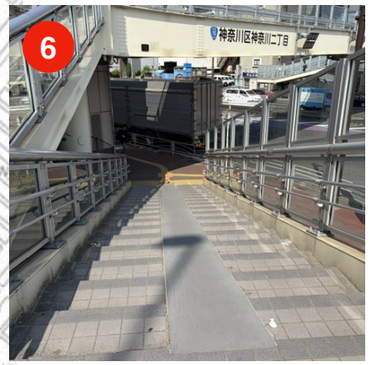














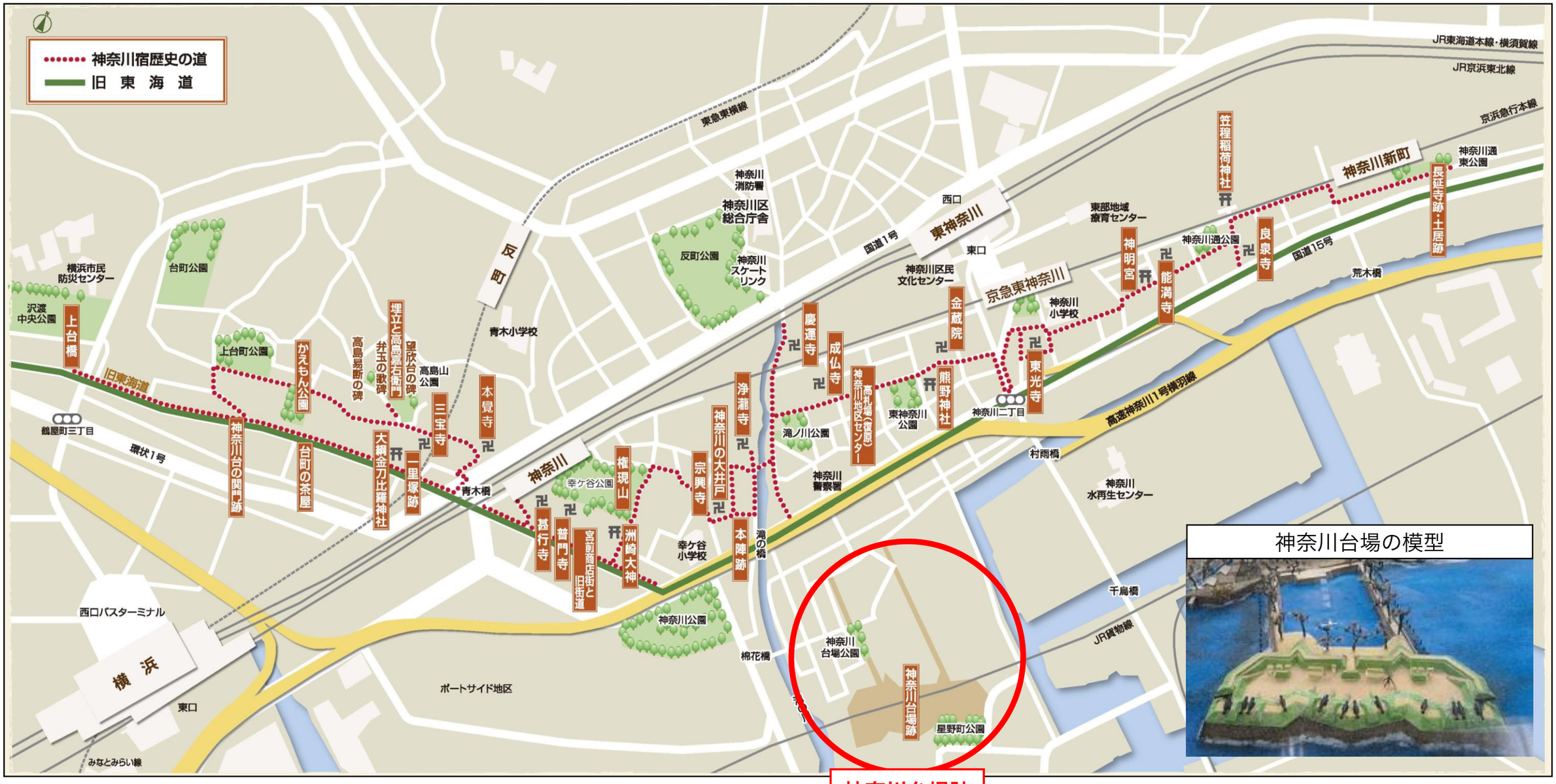


横浜市行政地図情報提供システムより抜粋・編集

神奈川台場跡・神奈川宿歴史の道

神奈川台場跡は、開港当時に港を警備するため、勝海舟の設計で伊予松山藩が建設した海防砲台です。
1860年に完成し、1899年に廃止されるまで礼砲用として使用されました。現在では埋め立てが進み、一部の石垣を見ることができますが大部分は埋められています。

神奈川宿歴史の道は、横浜市のルーツである神奈川宿に残る歴史や伝説の地を巡りながら歩ける散策路です。沿道には、歴史的な要所にガイドパネルが設置され、歩道や街路灯、モニュメントなどにも歴史を感じさせるデザインが施されています。



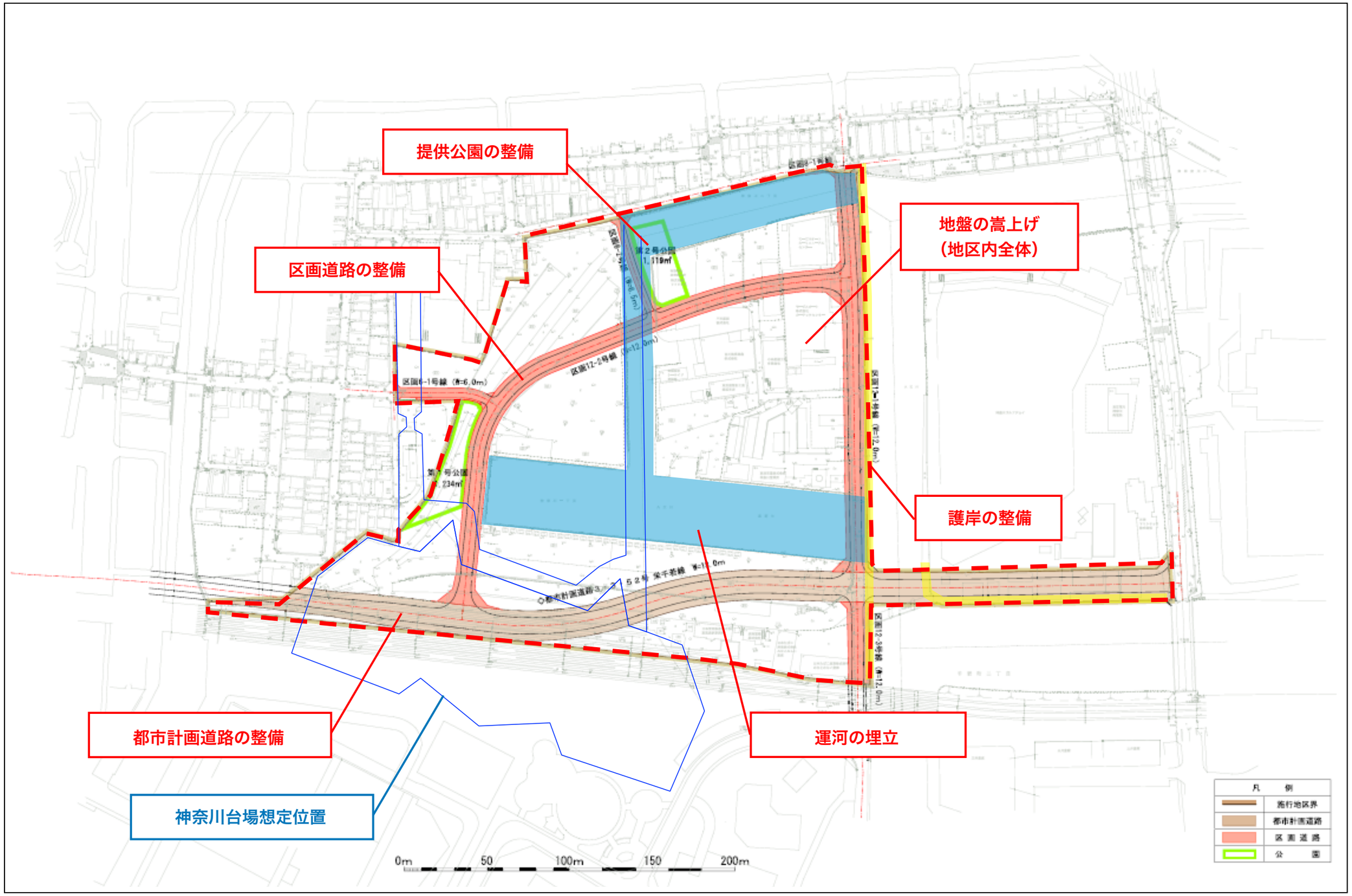
神奈川台場跡

神奈川宿歴史の道より抜粋

土地区画整理事業

　横浜の新たな都心を担う地区として、都市基盤の整備を行うとともに、都心にふさわしい合理的かつ健全な土地の高度利用の実現など、総合的な地域の再編整備を行うため、本地区のうち約7.5haの範囲において、土地区画整理事業を行っています。

土地区画整理事業は令和９年度末に完了する見込みとなっています。



土地区画整理事業

令和８年２月時点で運河の大部分が埋立されており、運河沿いの護岸の整備や新設橋梁を含む都市計画道路の整備が進められています。

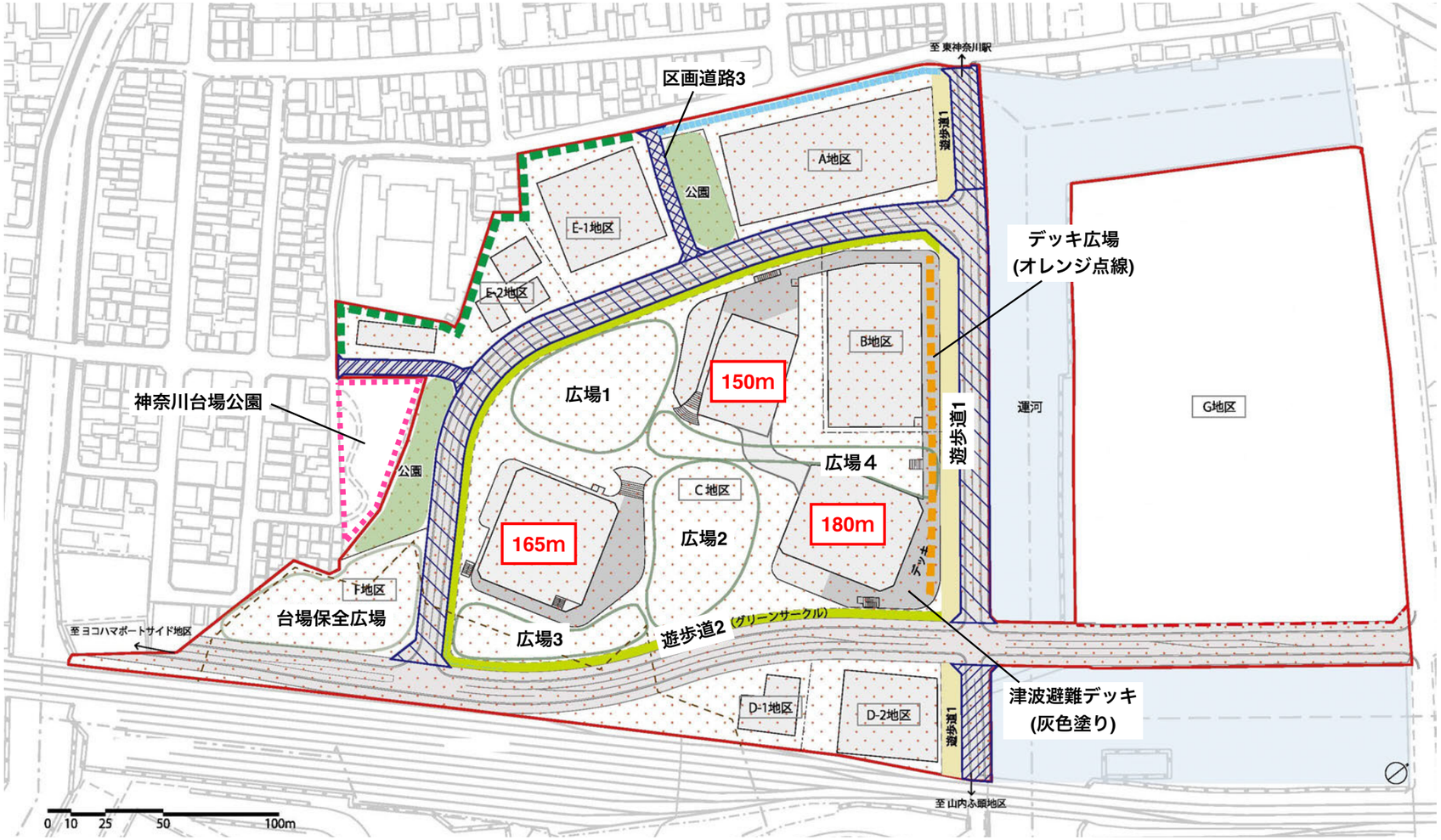
令和8年2月16日撮影



平成31年12月18日撮影



地区計画



地区計画の内容(抜粋)

凡 例				
地区計画の区域			約 10.3ha	
再開発等促進区及び地区整備計画の区域			約 7.5ha	
地区全体の基盤となる公共施設等	主要な公共施設	主要な道路	（幅員 12.0m） 延長約 530m	
	地区施設	区画道路１	（幅員 12.0m） 延長約 60m	
		区画道路２	（幅員 12.0m） 延長約 50m	
		区画道路３	（幅員 6.0m） 延長約 60m	
		区画道路４	（幅員 6.0m） 延長約 60m	
		遊歩道１	（幅員 8.0m） 延長約 230m	遊歩道１
		遊歩道２	（幅員 4.0m） 延長約 440m	遊歩道２
		広場１	面積約 3,300 ㎡	広場１
		広場２	面積約 2,800 ㎡	広場２
		広場３	面積約 1,900 ㎡	広場３
		広場４	面積約 1,300 ㎡	広場４
		台場保全広場	面積約 2,800 ㎡	台場保全広場
		デッキ広場	面積約 950 ㎡	
		歩道状空地	（幅員 2.0m） 延長約 120m	
		緑地帯	（幅員 1.0m） 面積約 190 ㎡	
津波避難デッキ				

※現在の想定であり、土地利用は変更となる可能性があります。

地区の区分	A地区	B地区	C地区	D-１地区	D-２地区	E地区	F地区	G地区
面積	約0.9ha	約0.7ha	約3.3ha	約0.5ha	約0.4ha	約0.8ha	約0.6ha	約3.1ha
主な土地利用	健康・医療・福祉		商業・住居	商業・業務	下水道施設	業務	公園・広場	健康増進等
容積率の最高限度	300%	400%	600%	200%	440%	200%	20%	200%
高さの最高限度	31m	60m	150・165・180m	31m	31m	31m	31m	31m

公共施設等の整備の方針

- 水辺空間の賑わいの創出や景観を楽しむため、「東神奈川まち・海軸」沿いに遊歩道１及びデッキ広場を整備する。
- 遊歩道１と連続し、地区内の回遊性を高め、かつ、健康増進に資する遊歩道２を整備する。
- 健康増進、交流活動などの機会を創出するため、広場１及び広場２を整備する。
- 神奈川台場遺構の歴史を継承するとともに、地区全体の交流機会を増進するため、広場３及び台場保全広場を整備する。
- 遊歩道１から広場１及び広場２へ人々の賑わいをつなぐため、広場４を整備する。
- 広場のうち歴史散策ネットワークを形成する部分については、神奈川宿歴史の道との調和に配慮する。

※歴史散策ネットワーク…既存の神奈川宿歴史の道から台場保全広場へ続く歩行者通路。区画道路３からC地区内の広場を介して台場保全広場につながるネットワークを想定している。

02

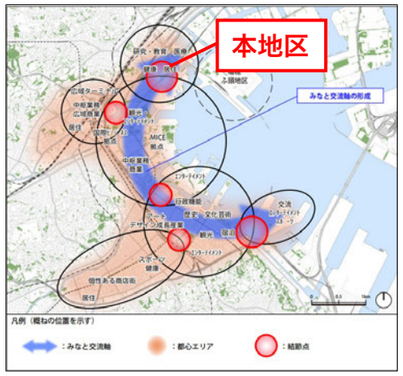
ランドスケープ計画の基本方針

まちづくりのコンセプト

上位計画の位置づけ

①都心臨海部再生マスタープラン
・みなと交流軸上の5つの結節点の1つ
・「研究・教育・医療・健康・居住」の機能を配置

②東神奈川臨海部周辺地区再編整備計画
・運河など親水空間を含む魅力的な複合都市空間
・東神奈川まち・海軸の拠点の1つで、まちづくりの骨格を担う地区



みなと交流軸上の5つの都心エリアの1つにある本地区
都心臨海部再生マスタープランより抜粋・編集

本地区の立地認識・課題整理

①立地特性
・アクセス利便性の高い、横浜都心臨海部の玄関口
・「東神奈川まち・海軸」と「みなと交流軸」の結節点
・運河に面した景観資源
・神奈川台場等の歴史的資源

②課題
・低、未利用の土地
・都市基盤がぜい弱
・歴史的資源が未活用



都市軸の結節点である本地区(概念図)

まちづくりのコンセプト

地区内施設を利用した交流をベースに、心身共に健康的、幸福(ウェルビーイング)なライフスタイルの実現

①横浜都心で働きやすい環境の創出

・子育てしながら働ける環境の整備
・高規格な住宅の整備
・横浜都心の一部である当地区の立地を活かし、職住近接を実現する施設等を整備



②健康的に暮らせるまちの実現

・A/B地区内に誘致される医療関連施設との連携
・健康習慣をサポートする施設の誘致
・ウェルネス住宅(回遊性のある歩行者空間の整備や健康遊具等の設置)の整備



③魅力的な空間の整備と人々の活動・交流機会の創出

・賑わい施設の誘致や交流施設の整備
・人々の活動の場となるオープンスペースの整備とエリマネ活動を支える拠点施設の整備



④地域資源を活かした交流の促進

・歴史、水辺（運河）が身近に感じる空間の整備
・地域資源を活用する事で、人々の交流の促進



⑤安心・安全など地域防災環境の向上

・道路や護岸などの公共施設の整備、地盤の嵩上げ、電線の地中化
・B/C地区における津波避難デッキの整備
・日常からの防災訓練、清掃活動等を通した地域コミュニティの創出



東高島駅北地区の変遷



海と丘のむら

奈良～室町
8～15世紀

・海と丘が入り組む地形、入江 /干潟と台地が交わる自然豊かな場所
・武蔵国の一部として、漁村や農村が点在
・古代東海道が通り、江戸以前から交通の要所
・丘の上に神社（洲崎神社 / 熊野神社など）が成立し、村の中心となる

神奈川宿と海上交通の時代

江戸時代前期～幕末
1601～1867年

・江戸と京都を結ぶ東海道の重要宿場として繁栄
・多くの旅籠や問屋場が立ち並び、人と物が行き交う交流の拠点
・近くの海（神奈川湊）は江戸への物資輸送の港として機能
・現在の青木町 / 台町 / 神奈川本町などの高台沿いが宿場街

開港・神奈川台場の築造

幕末 ペリー来航～明治維新
1853～1868年

・神奈川台場、黒船来航を受け、幕府が江戸防衛のために築いた海上砲台
・外国船への備えとしての軍事拠点
・対岸の「横浜村」が開港地に、神奈川宿は外交 / 交易の玄関口の役割を担う

高島駅・埋立・港湾施設の形成

明治～戦前
1868～1945年

・明治以降、神奈川の沖合が大規模に埋め立てられ、港湾 / 工業地帯へ
・明治20年代：横浜鉄道開通により物流拠点化
・昭和初期：JR貨物 東高島駅が開設され、鉄道×海運の結節点として重要なインフラに
・周辺には倉庫 / ドック / 鉄鋼 / 繊維などの重工業が集積

産業都市・港湾都市の成熟

戦後～高度成長期
1945～1980年

・戦後復興と高度経済成長により、東高島 / 神奈川周辺は物流、倉庫の街へ
・石炭埠頭、製鉄所、倉庫群、国鉄貨物線網が整備
・港としての機能が高まる一方で、生活環境は分断される

港湾地区再開発

1990年代～2000年

・旧港湾地区の再開発
・コットンハーバー：かつての繊維倉庫群（COTTON倉庫群）跡地を
海と街をつなぐ新しいウォーターフロント住宅地として再生
・みなとみらい21の北端として、横浜都心との連続性を形成

かつて、この地には、

人々の暮らしをつなぐ往来があり、

海を渡る船や、鉄路を走る貨物の流れがあった。

ここは、流れが場をつくり、

場がまた新しい流れを生む場所。

ランドスケープコンセプト







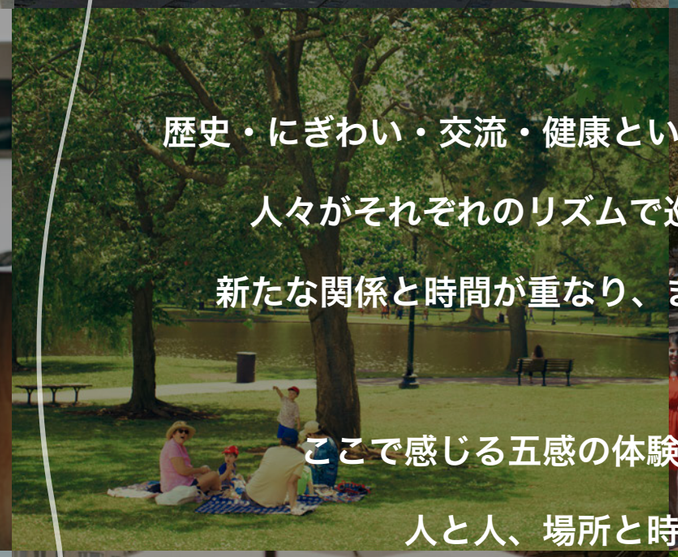


流れをつなぎ、まちを育てる環境装置。



THE CIRCULATION





歴史・にぎわい・交流・健康といった多様な活動をゆるやかに結び、

人々がそれぞれのリズムで巡り、滞在し、関わることで、

新たな関係と時間が重なり、まちの価値が育まれていきます。



ここで感じる五感の体験は、まち全体へと波及し、

人と人、場所と時間をつなぎながら、

この地に新たな文化を育てていきます。



「サーキュレーション」

循環、流通などを意味する言葉

人や物の動き、水や空気の循環、血行など、さまざまな「巡る動き」を指す

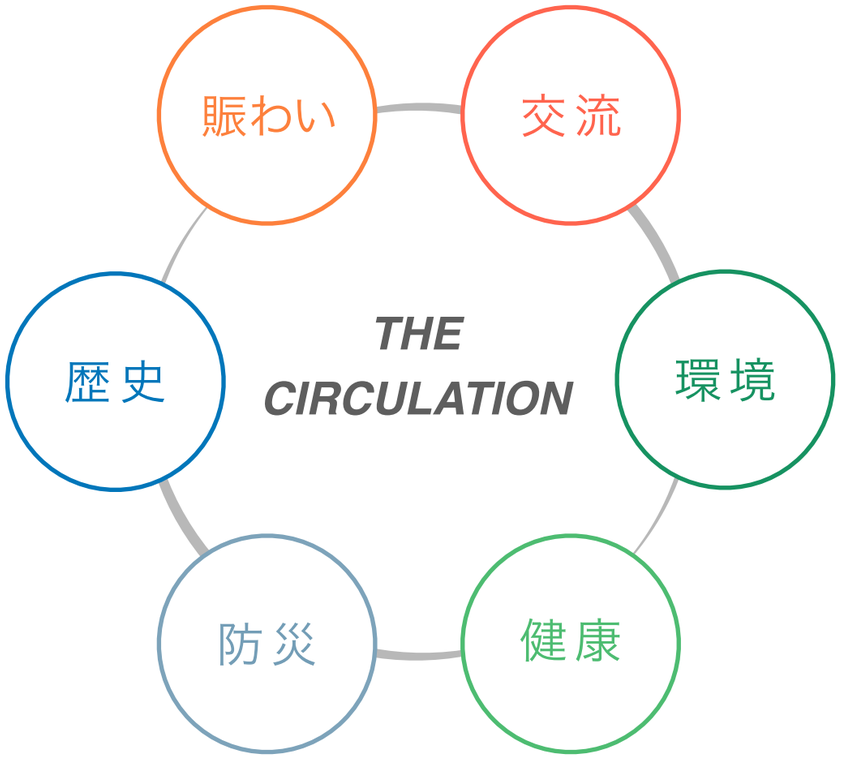






ランドスケープ計画の主要素

本計画では、「賑わい・交流・環境・健康・防災・歴史」の6つの要素を、ランドスケープの基本構成として設定します。
これらが敷地全体に重なり合い、この場所ならではの人々の活動や過ごし方を生み出します。
それぞれの要素が連鎖し、相互に作用することで、多様な体験が広がり、空間の価値を高めていきます。



それぞれの要素は互いに影響し合いながら、
一体の風景として育まれていきます。

賑わい｜地域の文化や創造性を発信・共有

地域イベントや日常利用を通じて、文化や創造的活動が発信・共有される場を育み、活気あるまちを形成します。




交流｜出会い・会話・共創を生むパブリックスペース

人と人が自然に出会い、会話や活動が生まれる居心地のよい場を作ることで、地域のつながりを育てます。




環境｜自然の循環の中で暮らす

緑豊かなランドスケープにより、季節の移ろいや循環を感じながら、自然と共生する場をつくります。




健康｜身体のリズムを整え誰もが快適に過ごせる空間

歩きたくなる緑豊かな空間や運動に適した整備を行うことで、心身の健康を支える場を創出します。




防災｜日常に防災を取り入れた災害に強いまち

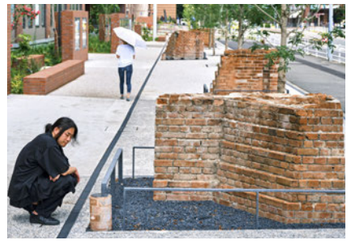
災害時に役立つ設備を広場に整備し、ワークショップなど日常の暮らしの中に取り入れることで、非常時にも機能するまちをつくります。




歴史｜この土地に刻まれた記憶を未来へつなぐ

地域の歴史を日常動線や広場に組み込むことで、この土地に刻まれた記憶を未来へと継承します。

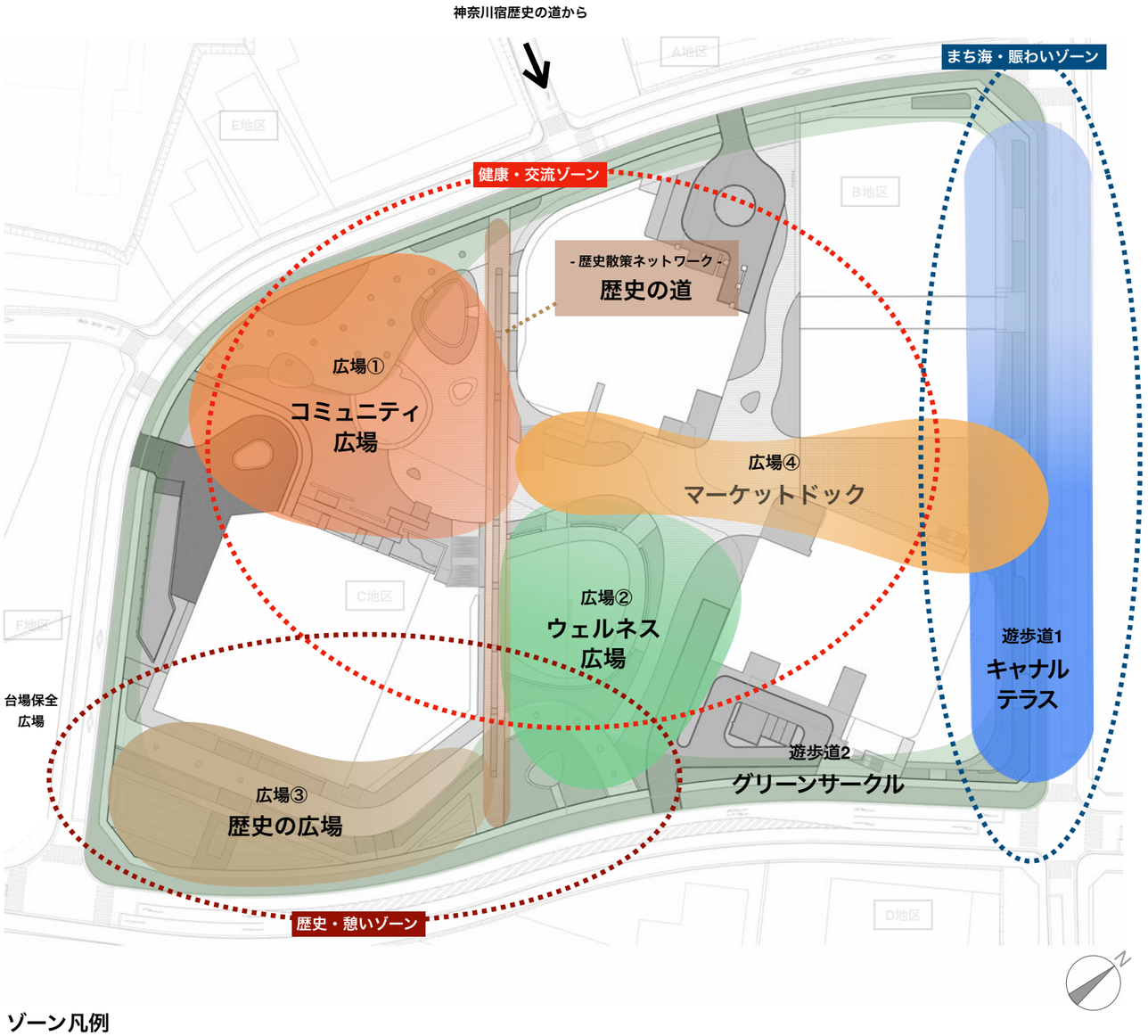




広場・遊歩道の整備方針

前述の地区計画の、公共施設等の区分・整備の基本方針をベースに、それぞれのエリアにテーマを設定します。
住環境や施設との接続、防災や環境に関わる日常利用から、地域イベントや歴史の継承まで、広場と遊歩道は多様な役割を担います。
外周を巡るグリーンサークルは、これらの場を連続的につなぎ、回遊を促しながら、敷地内外のつながりを生み出します。

ZONING PLAN



ゾーン凡例

まち海・賑わいゾーン
運河に面する東神奈川まち・海軸沿いに設定
臨海線他エリアとの接続に寄与するエリア

歴史・憩いゾーン
神奈川台場本体想定位置に設定
歴史散策遊歩道の回遊性を高めるエリア

健康・交流ゾーン
既存市街地や東神奈川まち・海軸から人を引き込みやすい
位置に設定。地域の人々が集い賑わいの中心となるエリア

グリーンサークル｜遊歩道2

歩きやすい舗装とベンチ、健康遊具を備え、散策や運動に適した歩行環境を整えます。緑が人々を誘い、回遊と滞在を促し、心身の健康と暮らしの循環を支えます。

交流 / 環境 / 健康

キャナルテラス｜遊歩道1

施設のにぎわいと緑の連なりが、歩く楽しさと滞在の心地よさを生み出します。2階デッキは運河へひらけた眺望を備え、災害時には津波避難デッキとしての避難場所機能も担います。

賑わい / 環境 / 防災

マーケットドック｜広場④

2階のブリッジが人々を迎え入れるゲートとなり、まち・海軸から敷地内へ人を導きます。かつてドックがあった場所では多彩なマーケットが開かれ、地域の文化や魅力を発信する場となります。

賑わい / 交流

コミュニティ広場｜広場①

地域に開かれ、人々が集い、賑わいが生まれる広場です。木陰での憩いや井戸端会議などコミュニティを育む場所になります。
広場には防災インフラを整備し災害時の対応力を高めます。

賑わい / 交流 / 健康 / 防災

ウェルネス広場｜広場②

年齢や目的を問わず利用できる、心身の健康を支える芝生広場です。日常の憩いからイベントまで、多様な利用を受け止め、交流と活力を生み出します。

賑わい / 交流 / 環境 / 健康

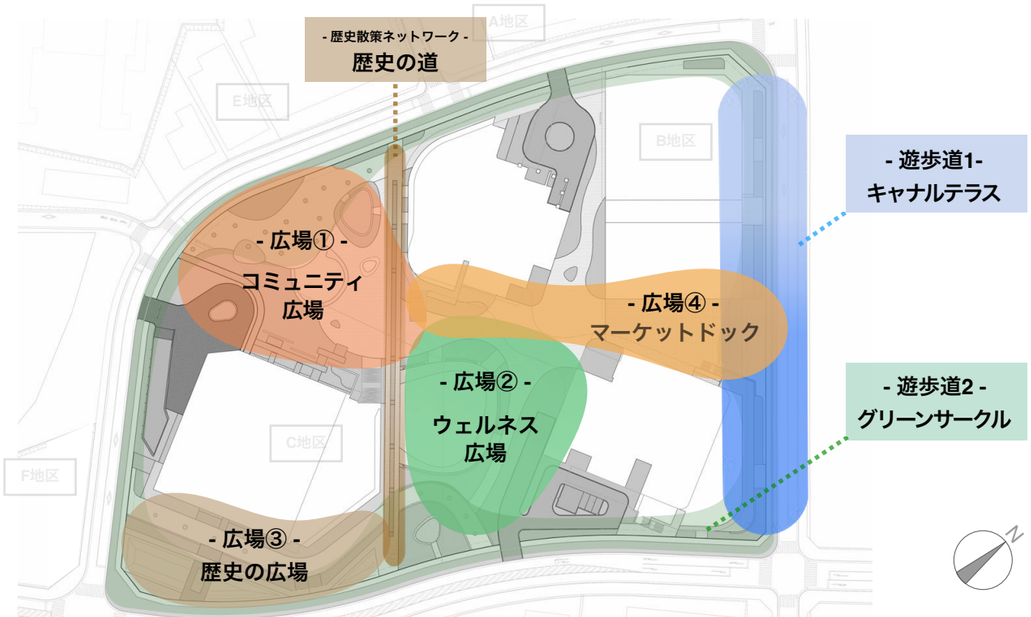
歴史の道・歴史の広場｜広場③

神奈川宿歴史の道から台場へ続くネットワークを形成します。台場や鉄道施設の痕跡をサインで可視化したり、実際の遺構を活かすことで、この土地の歴史を後世に継承することを目的とします。

交流 / 歴史

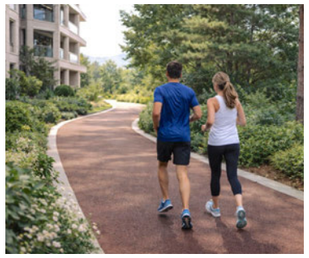
広場・遊歩道のアクティビティイメージ

ZONING PLAN



※各広場に記載のアクティビティは現時点でのイメージです。

グリーンサークル｜遊歩道2


ランニングで健康づくり


季節の草花が、歩く楽しみをつくる


体を動かしたくなる仕掛け


木陰で休む・語らう

キャナルテラス｜遊歩道1


緑に囲まれたカフェテラスで食事を楽しむ


仲間との語らい


運河への眺望を眺める


デッキテラスで休む、語らう

歴史の道・歴史の広場｜広場③




歴史年表や遺構から地域の変遷を知る・歴史を辿って散策する


台場のスケールを体感する

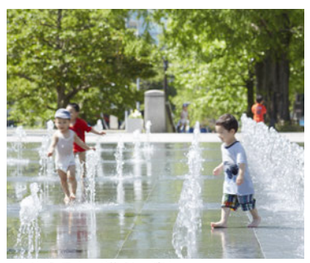

歴史モチーフの投影で夜間の特別な楽しみ

コミュニティ広場｜広場①


休憩、ランチ、仲間との語らい


災害時を想定した訓練


地域のイベント・盆踊り大会


水やミストで遊ぶ、涼む

ウェルネス広場｜広場②


ヨガやストレッチ


地域のコンサート・イベント


芝生でピクニック


芝生で遊びのワークショップ

マーケットドック｜広場④

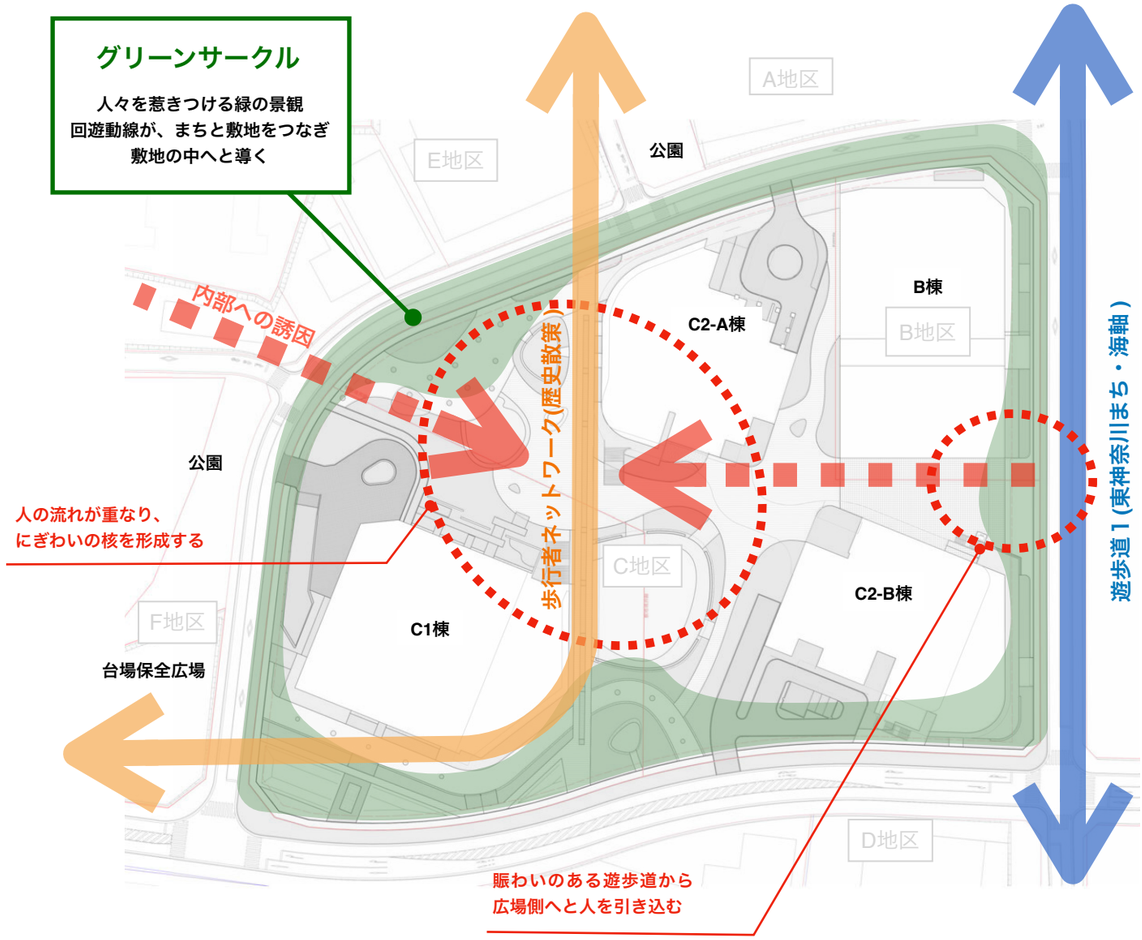

マーケットへの参加


並木の下での憩いや飲食

※それぞれのアクティビティについては、2026年上半期に横浜市と締結する予定のエリアマネジメント協定の中で、地権者や地元と意見交換しながら計画を検討していきます。
現在は準備期間として近隣学校や地元との関係性構築を進めています。

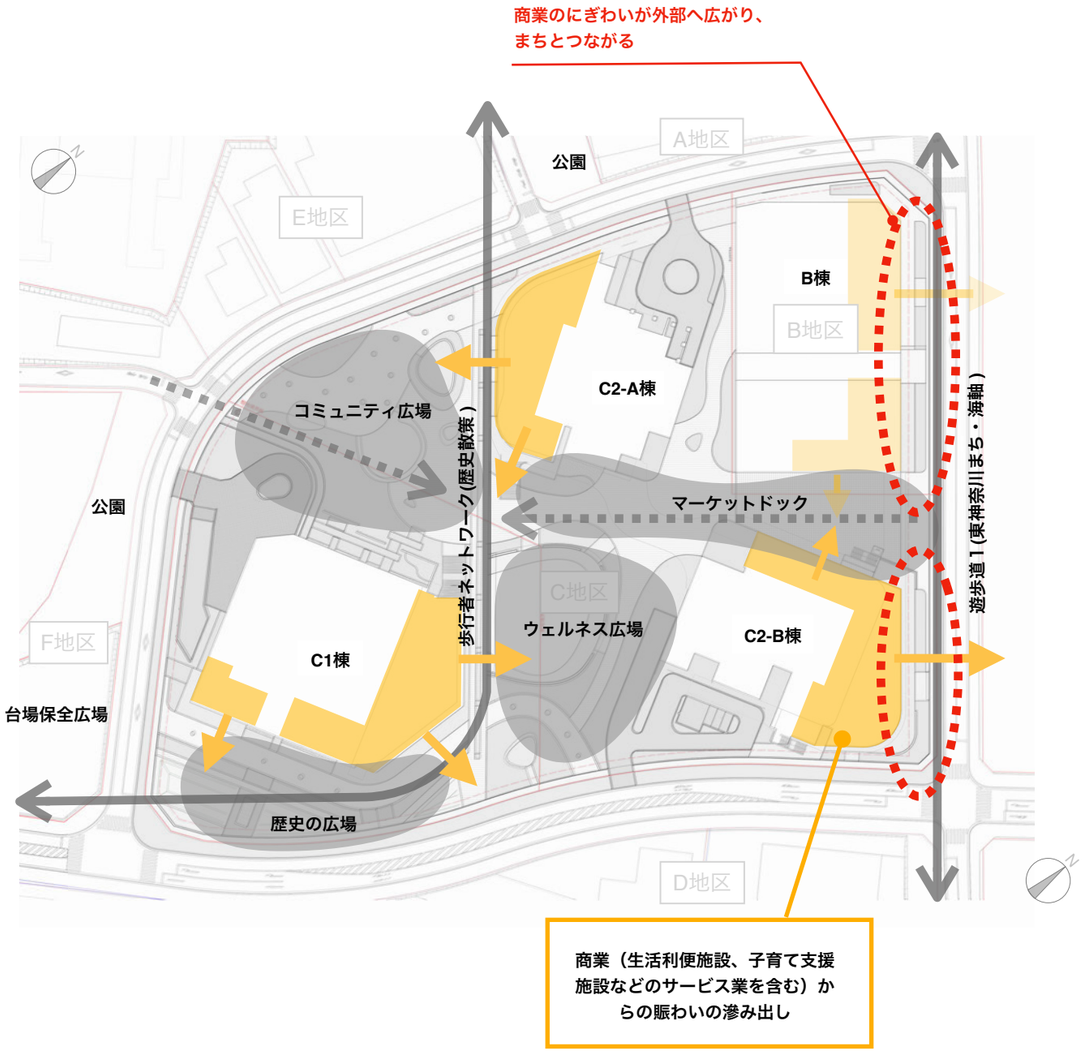
まちに開かれたオープンスペース

外周のグリーンサークルと歩行者ネットワークが、人の流れを敷地内へと導きます。
まち・海軸の遊歩道、敷地中央広場を中心に、施設と一体となったオープンスペースがにぎわいを内外へ広げます。
回遊する動線と滞在の場が重なり合うことで、人の流れとにぎわいが敷地全体に広がり、まちに新たな魅力と活気を生み出します。



周辺エリアとのつながり

敷地外周に安心安全に歩ける遊歩道があることで、地域住民や来訪者が自然に立ち寄り交流や滞在が生まれる、街に開かれたオープンスペースを形成します。



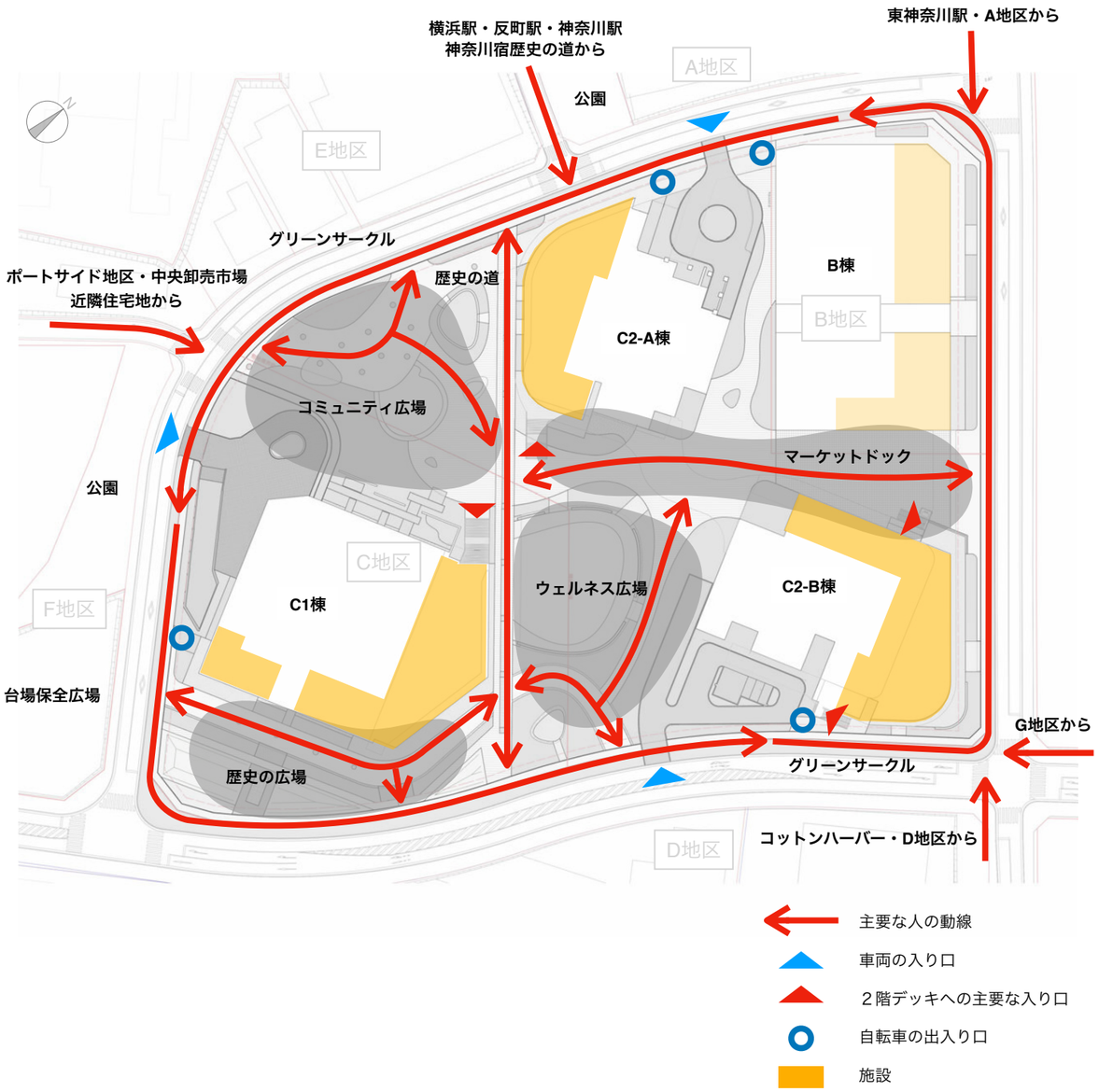
商業の賑わいと一体となった景観

店舗での活動や人の気配が広場や通りへとにじみ出し、にぎわいのある屋外空間を創出します。
さらに、まち・海軸に沿って連続する施設のにぎわいが、敷地内部への人の流れを生み出します。

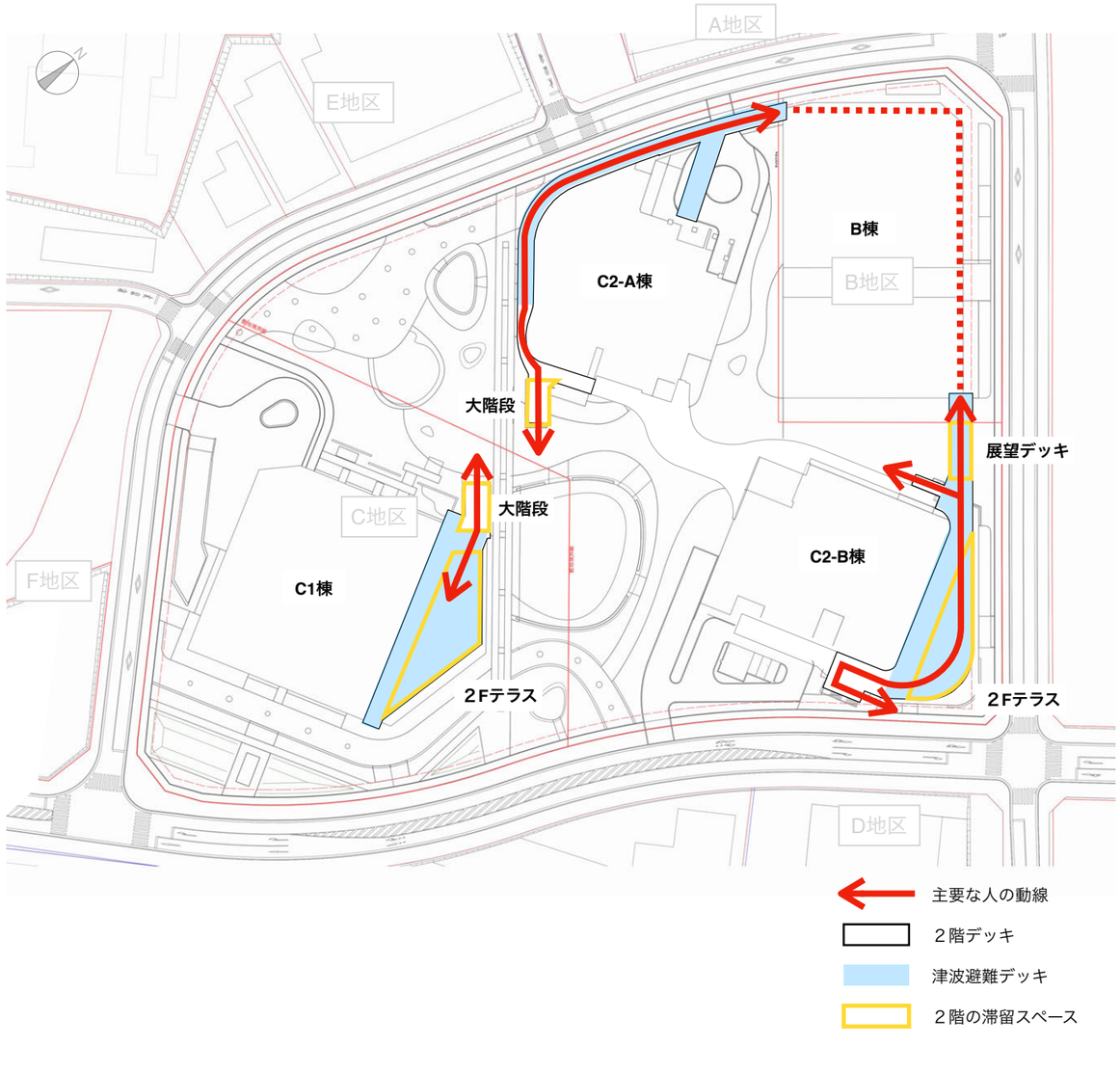
※B地区の計画は地権者と協議の上今後調整していくため、図の限りではない。

地上階・２階の動線計画

地上階



2階



地上階の広場・施設と動線計画について

敷地外からやってきた人々を外周の緑や施設の賑わいが受け止め、まちへと引き込みます。広場は場所ごとに異なるテーマを持たせることで巡る楽しみを生み出し、グリーンサークルや歴史の道など主要な動線が敷地の各所へ人を導きます。

２階デッキの滞留空間と動線計画について

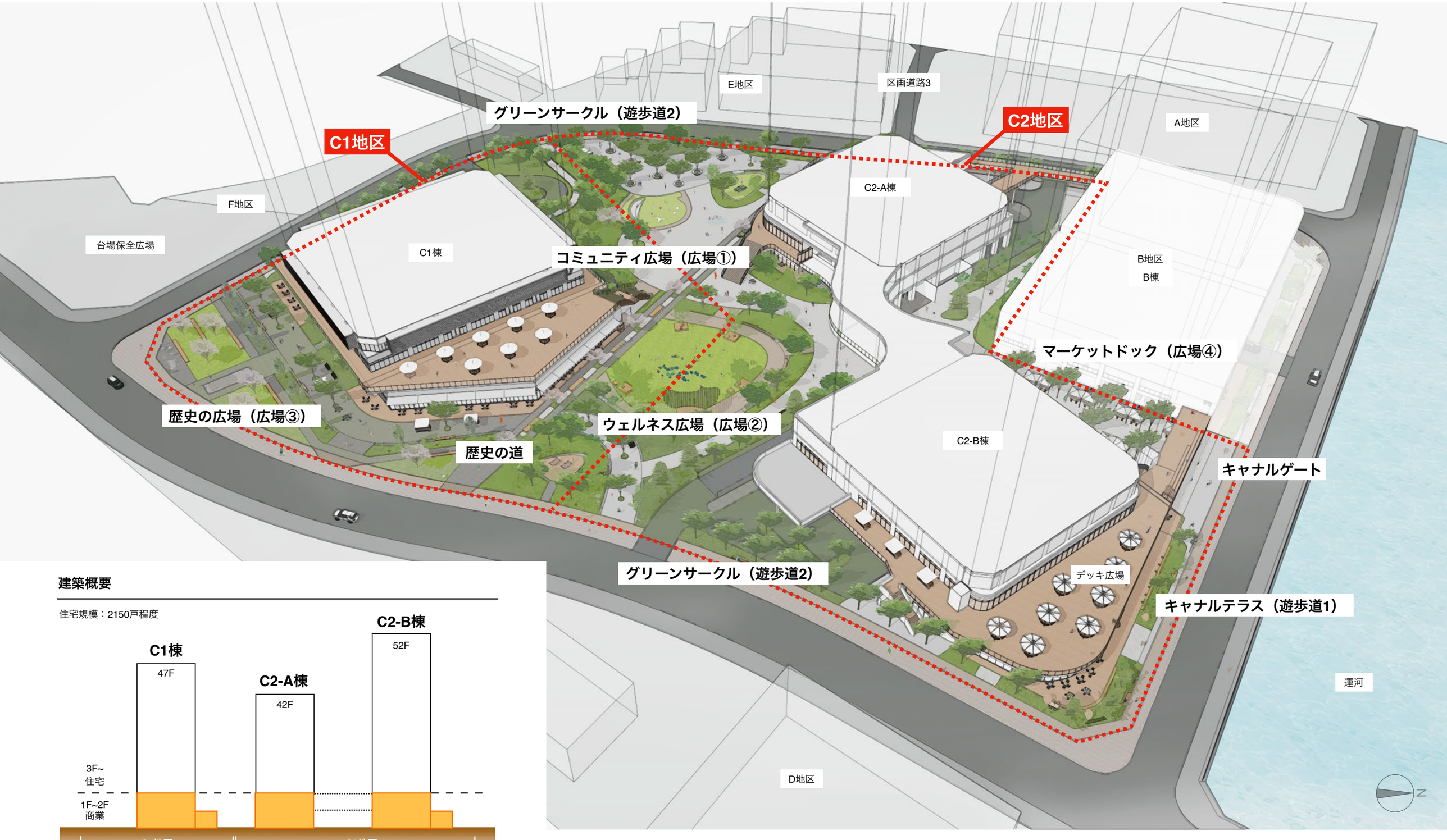
デッキには外周のグリーンサークルや広場など、敷地各所から上がることができます。地上階の賑わいを感じながら散策できる通路や、広場や景色を眺めながら休憩できる展望デッキ、大階段を計画します。また、津波避難デッキは、災害時の一時避難場所となります。

※B地区の計画は地権者と協議の上今後調整していくため、図の限りではない。

03

景観イメージ

鳥瞰イメージ

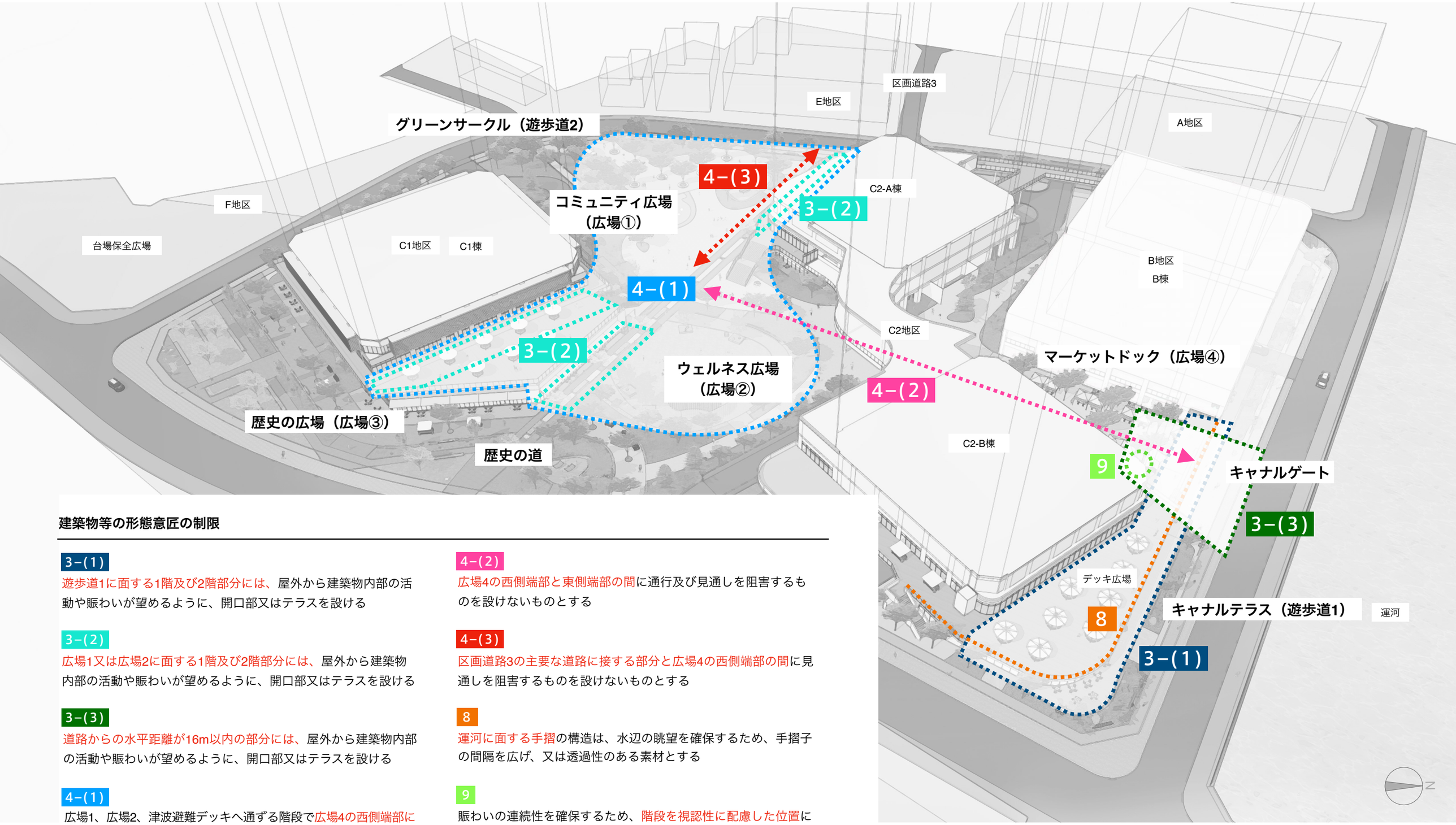


建築概要

住宅規模：2150戸程度

※B地区の計画は地権者と協議の上今後調整していくため、絵の限りではない。

形態意匠に関する審議内容と該当する箇所



※B地区の計画は地権者と協議の上今後調整していくため、絵の限りではない。
※各項目の番号は地区計画書から引用したもの。(P3に添付)

建築物等の形態意匠の制限

3−(1)
遊歩道1に面する1階及び2階部分には、屋外から建築物内部の活動や賑わいが望めるように、開口部又はテラスを設ける

3−(2)
広場1又は広場2に面する1階及び2階部分には、屋外から建築物内部の活動や賑わいが望めるように、開口部又はテラスを設ける

3−(3)
道路からの水平距離が16m以内の部分には、屋外から建築物内部の活動や賑わいが望めるように、開口部又はテラスを設ける

4−(1)
広場1、広場2、津波避難デッキへ通ずる階段で広場4の西側端部に面するもの、並びに広場1又は広場2に面して設ける1階及び2階の開口部と広場4の西側端部の間に、見通しを阻害するものを設けない

4−(2)
広場4の西側端部と東側端部の間に通行及び見通しを阻害するものを設けないものとする

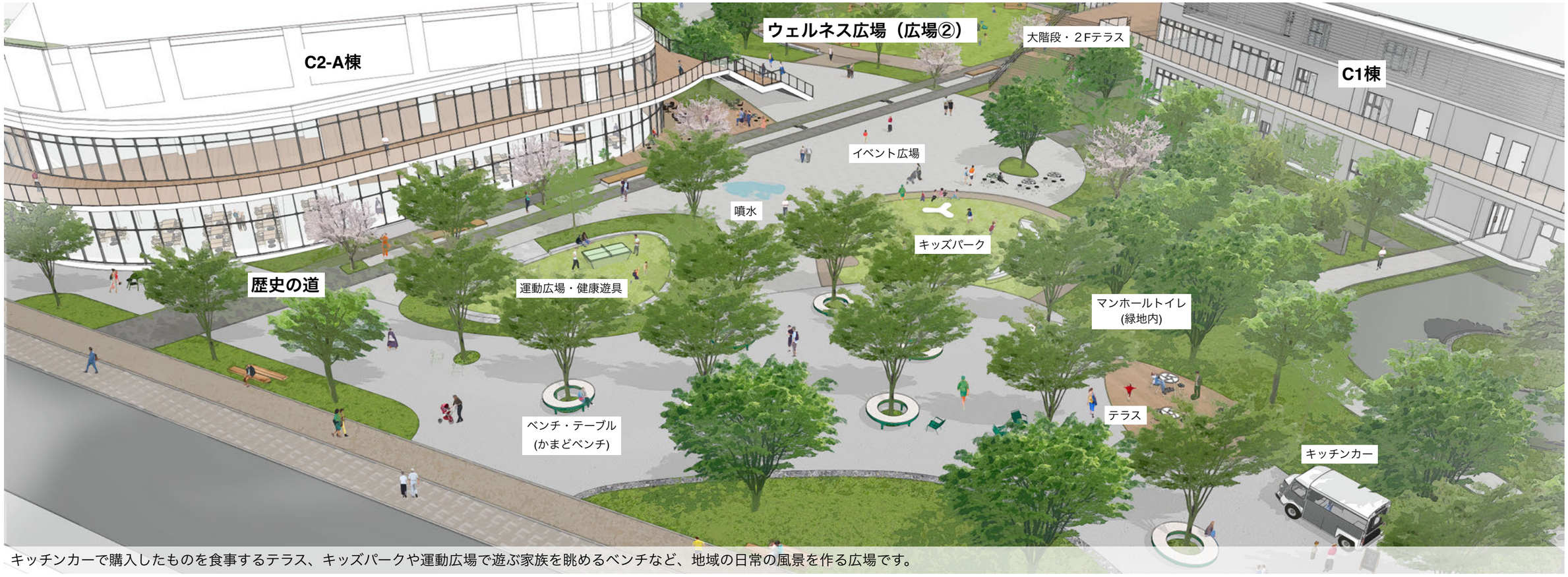
4−(3)
区画道路3の主要な道路に接する部分と広場4の西側端部の間に見通しを阻害するものを設けないものとする

8
運河に面する手摺の構造は、水辺の眺望を確保するため、手摺子の間隔を広げ、又は透過性のある素材とする

9
賑わいの連続性を確保するため、階段を視認性に配慮した位置に設ける

コミュニティ広場（広場①） -地域のコミュニティと防災力を育む拠点-

日常の憩いから季節のイベント、災害時の一時避難までを受け止める、ひらかれた交流の拠点です。
木陰とベンチ、子どもの遊びや盆踊り等の地域イベントが賑わいを生み、周辺の人々も立ち寄りたくなる日常の風景をつくります。
災害時に役立つ設備を整備し、地域の防災力を高めます。



キッチンカーで購入したものを食事するテラス、キッズパークや運動広場で遊ぶ家族を眺めるベンチなど、地域の日常の風景を作る広場です。

KEY WORD

・購入したものをテラスやベンチで食事
・カフェやキッチンカーが並ぶ日常的な賑わい
・地域コミュニティを育むイベント広場（盆踊りなど）
・日常に溶け込む防災インフラ
（かまどベンチ・マンホールトイレなど）
・定期的に防災訓練を行い災害時の対応力を高める

賑わい　交流　健康　防災

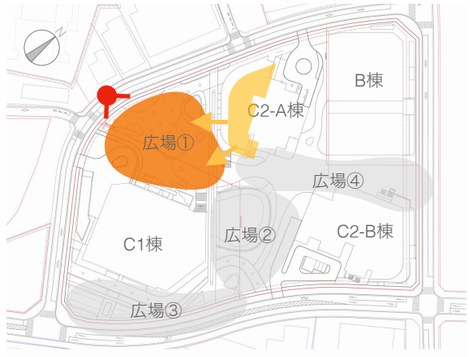
ACTIVITY IMAGE


高木の下で休憩、ランチ、仲間との語らい


遊具で遊ぶ


地域のイベント・盆踊り大会

KEYPLAN



コミュニティ広場（広場①）
施設からの賑わいの滲み出し
パース視点

【建築物等の形態意匠の制限】
3-(2) 広場1又は広場2に面する1階及び2階部分には、屋外から建築物内部の活動や賑わいが望めるように、開口部又はテラスを設けるものとする。ただし、住宅等又は自動車車庫その他の専ら自動車若しくは自転車の停留若しくは駐車のための施設（誘導車路、操車場所及び乗降場を含む。）の用途に供する部分を除く。
4-(1) 建築物は、地区内の視認性及び回遊性を高めるため、広場1、広場2、津波避難デッキへ通ずる階段で広場4の西側端部に面するもの、並びに広場1又は広場2に面する建築物の広場1又は広場2に面して設ける1階及び2階の開口部と広場4の西側端部の間に、見通しを阻害するものを設けないものとする。

ウェルネス広場（広場②） -活動を受け止め、健康を支える広場-

アーバンエクササイズや子どもの遊びなど、年齢や目的を問わず、思い思いに体を動かしながら過ごせる芝生広場です。
季節で表情を変える緑や花々、木陰や風といった自然環境の中で過ごす時間が、日常に穏やかなリズムと新たな活力をもたらします。
パーゴラはステージとしても機能し、イベントや交流を通じて地域のつながりを育みます



3棟に囲まれており敷地的にも中心性がある広場です。建築や大階段、オープンテラス、パーゴラなど多方向から賑わいを感じられます。

KEY WORD

- 多様なアクティビティを受け入れる芝生広場
- 木陰の中で休める縁台
- イベント利用が可能なステージ
- どの棟からも見下ろせるエリアの中心的な空間

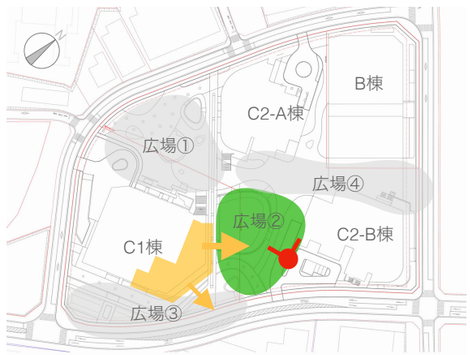
賑わい　交流　環境　健康

ACTIVITY IMAGE


ヨガやストレッチ


地域のコンサート・イベント


芝生でピクニック



KEYPLAN

ウェルネス広場（広場②）
施設からの賑わいの滲み出し
パース視点

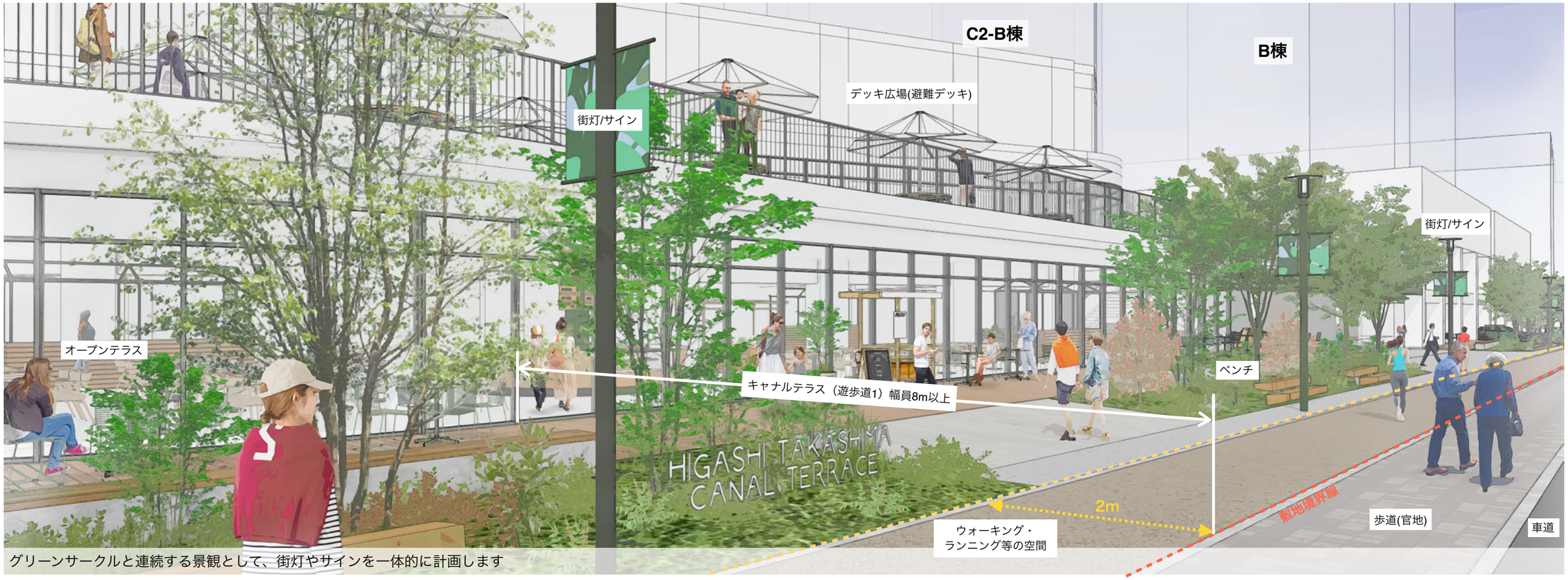
【建築物等の形態意匠の制限】

3-(2) 広場1又は広場2に面する1階及び2階部分には、屋外から建築物内部の活動や賑わいが望めるように、開口部又はテラスを設けるものとする。ただし、住宅等又は自動車車庫その他の専ら自動車若しくは自転車の停留若しくは駐車のための施設（誘導車路、操車場所及び乗降場を含む。）の用途に供する部分を除く。

4-(1) 建築物は、地区内の視認性及び回遊性を高めるため、広場1、広場2、津波避難デッキへ通ずる階段で広場4の西側端部に面するもの、並びに広場1又は広場2に面する建築物の広場1又は広場2に面して設ける1階及び2階の開口部と広場4の西側端部の間に、見通しを阻害するものを設けないものとする。

キャナルテラス（遊歩道1） -賑わいが連続する遊歩道-

施設の賑わいと緑の連なりが、歩く楽しさと滞在の心地よさを生み出す、運河に向かってひらかれた遊歩道空間です。
外壁をセットバックすることで内外がつながったオープンテラスや、四季折々で変化する植栽によって歩く楽しみをつくります。
夜には柔らかなライトアップが風景を照らし、人々の滞在を誘います。



グリーンサークルと連続する景観として、街灯やサインを一体的に計画します

KEY WORD

・運河に向かってひらかれた、心地よいテラス
・賑わいの滲み出し、活気のある街並み
・豊かな緑の中のカフェや散歩、語らいの時間
・歩道側にも一休みできるお休み処

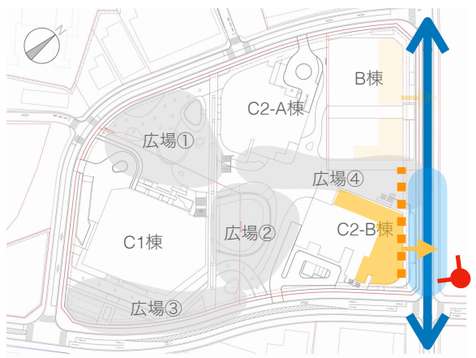
賑わい　環境　防災

ACTIVITY IMAGE


緑に囲まれたカフェテラスで食事を楽しむ


仲間との語らい・憩いの時間

KEYPLAN



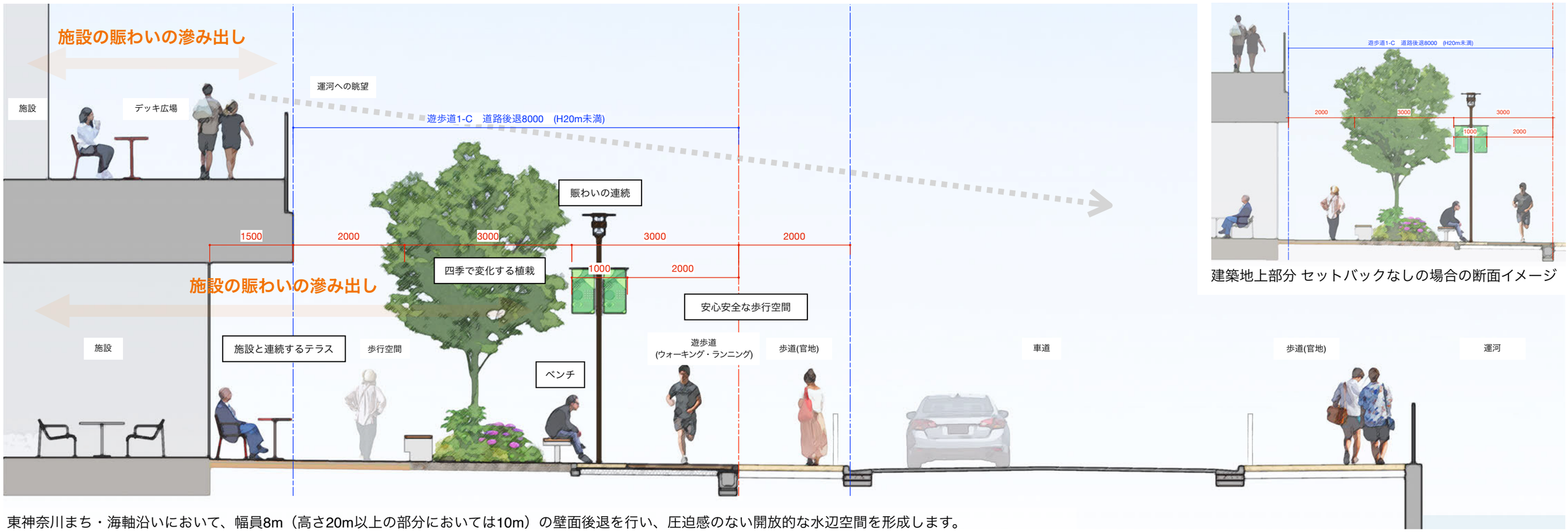
キャナルテラス（遊歩道1）
施設からの賑わいの滲み出し
東神奈川まち・海軸
デッキ広場
パース視点

【建築物等の形態意匠の制限】
3-(1) 遊歩道1に面する1階及び2階部分には、屋外から建築物内部の活動や賑わいが望めるように、開口部又はテラスを設けるものとする。ただし、住宅等又は自動車車庫その他の専ら自動車若しくは自転車の停留若しくは駐車のための施設（誘導車路、操車場所及び乗降場を含む。）の用途に供する部分を除く。
8 デッキ広場の運河に面する手摺の構造は、水辺の眺望を確保するため、利用者の通行の安全に支障がない範囲で、手摺子の間隔を広げ、又は透過性のある素材とするものとする。

キャナルテラス（遊歩道1） -賑わいが連続する遊歩道-

幅員８mの壁面後退でゆとりを生み、並木の連なりや四季の植栽、拠り所となるベンチが、快適な歩行空間を形成します。
地上部の建築を部分的にセットバックし、内外のつながり作ることで、東神奈川まち・海軸沿いに施設の賑わいを滲み出させます。
また、安全性と景観の質を両立した照明計画により、夜間も回遊性をつくることで日常的な憩いの場を目指します。

キャナルテラス断面イメージ

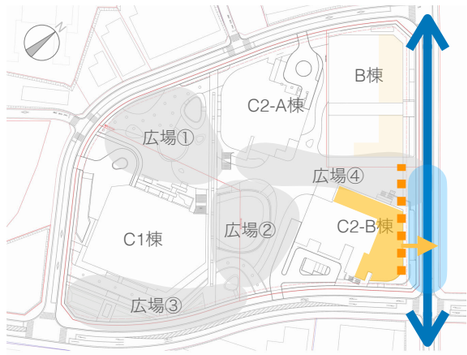


東神奈川まち・海軸沿いにおいて、幅員8m（高さ20m以上の部分においては10m）の壁面後退を行い、圧迫感のない開放的な水辺空間を形成します。

建築地上部分 セットバックなしの場合の断面イメージ

KEY WORD

施設と連続するテラス	部分的にセットバックを行うことで施設と連続するテラス空間をつくり、内外のつながりを生み出します。
四季で変化する植栽	緑豊かな並木の連続と、四季折々で楽しめる足元の植栽が歩く楽しみをつくります。
賑わいの連続	外灯・バナーを配置し、街区の一体感、シンボリックな通りの景観を計画します。
安心安全な歩行空間	敷地外と一体的なゆとりある歩行空間を確保し、照明の配置によって夜間も明るく安心安全な回遊動線をつくります。
ベンチ	散歩の途中、気軽に休憩できる道沿いの居場所を設けます。



KEYPLAN

- キャナルテラス（遊歩道1）
- 施設からの賑わいの滲み出し
- 東神奈川まち・海軸
- デッキ広場

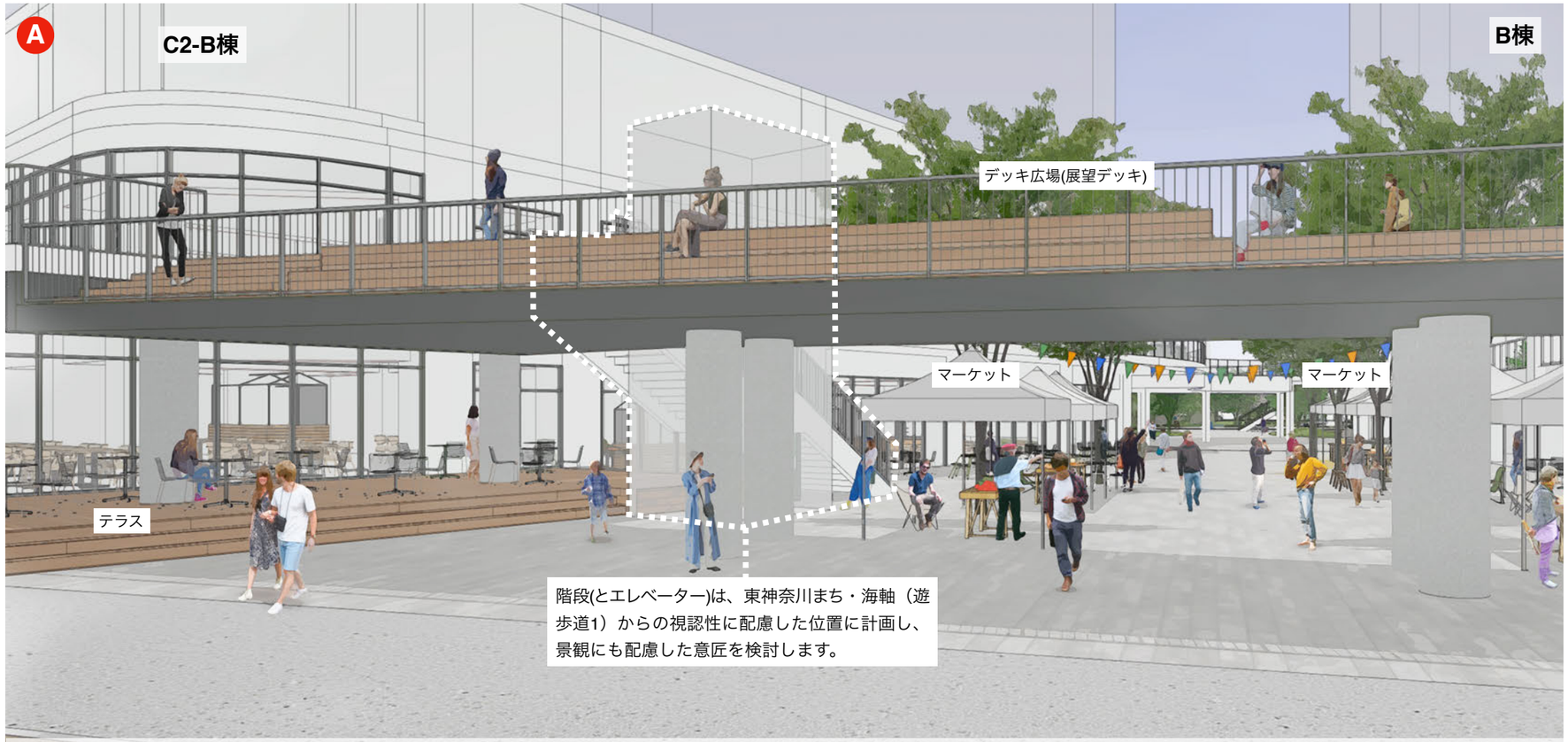
【建築物等の形態意匠の制限】

3-(1) 遊歩道1に面する1階及び2階部分には、屋外から建築物内部の活動や賑わいが望めるように、開口部又はテラスを設けるものとする。ただし、住宅等又は自動車車庫その他の専ら自動車若しくは自転車の停留若しくは駐車のための施設（誘導車路、操車場所及び乗降場を含む。）の用途に供する部分を除く。

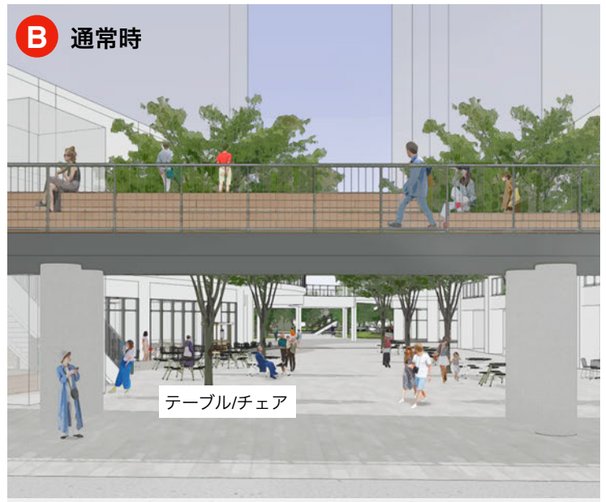
8 デッキ広場の運河に面する手摺の構造は、水辺の眺望を確保するため、利用者の通行の安全に支障がない範囲で、手摺子の間隔を広げ、又は透過性のある素材とするものとする。

キャナルゲート（広場④ 東側端部） -運河へひらく、眺望のゲート-

建築を2階レベルでつなぐブリッジであるキャナルゲートが、マーケットドック（広場④）へのゲート空間を形成します。
2階デッキ広場は津波災害時には避難施設として機能し、ゲート部分は運河の眺望を楽しむことができる段状の居場所として整備します。
上下のにぎわいをつなぎ、まち・海軸から中央へと視線と人の流れを導きます。



まち・海軸から、施設の賑わいや景観の回り込みを伝って、敷地の内部へ人々を誘引します。



テーブルやベンチ等が置かれ、日常の憩いの場になります。

KEY WORD

・賑わいのある遊歩道から広場側へと人を引き込むゲートとなる
・運河へのひらけた視界を望む
・段々ベンチやテラスで休む、語らう
・デッキ広場が津波避難デッキとして災害時の一時避難場所となる

賑わい　環境　防災

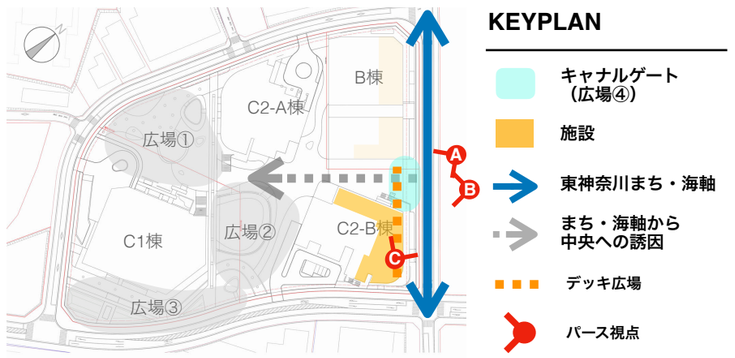
DESGIN IMAGE



運河への眺望

展望を確保するため、手すりは見通しの良いガラスまたは格子状のものとします。

KEYPLAN

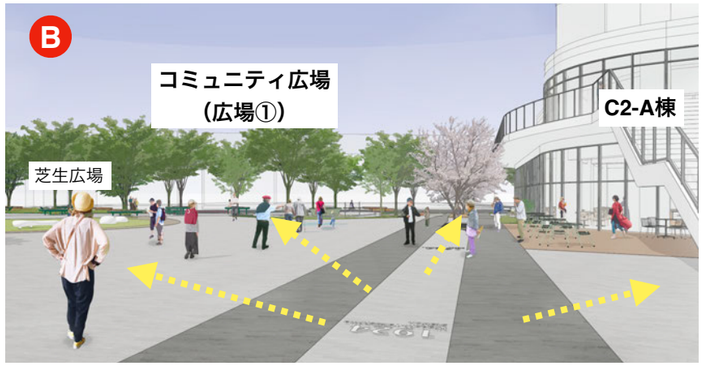


【建築物等の形態意匠の制限】
4-(2) 建築物は、地区内の視認性及び回遊性を高めるため、広場4の西側端部と東側端部の間に通行及び見通しを阻害するものを設けないものとする。ただし、用途上、機能上やむを得ないと市長が認める場合は、この限りではない。
8 デッキ広場の運河に面する手摺の構造は、水辺の眺望を確保するため、利用者の通行の安全に支障がない範囲で、手摺子の間隔を広げ、又は透過性のある素材とするものとする。
9 遊歩道1とデッキ広場の賑わいの連続性を確保するため、遊歩道1からデッキ広場につながる階段を視認性に配慮した位置に設けることで、積極的な歩行者の誘引を図るものとする。

マーケットドック（広場④） -流れを継ぎ、交流を育む広場-

かつて運河が流れ、鉄道と共に人や物の往来が交わっていた土地の記憶を継承し、流れが重なり合う交流の広場として再構成します。
列植された植栽とマーケットの賑わいが人々を中央の広場へと導き、キッチンカーやマルシェ、蚤の市、アートマーケットなど、
多彩な活動を通じて地域の魅力と創造性を発信します。





マーケットドック(広場④)西側端部から周辺の広場への見通しの確保



イベント開催時イメージ

賑わいの風景と並木の連続によって、奥へと視線を誘導し、敷地の中央へと人を引き込みます。

KEY WORD

・多彩なマーケットが開かれ、地域の魅力を発信する場
・通常時は人々の憩いの場
・並木による奥への誘引
・樹木やファニチャーが人々の拠り所となる
・奥の広場への視線の抜け、賑わいの連続

賑わい　交流

ACTIVITY IMAGE

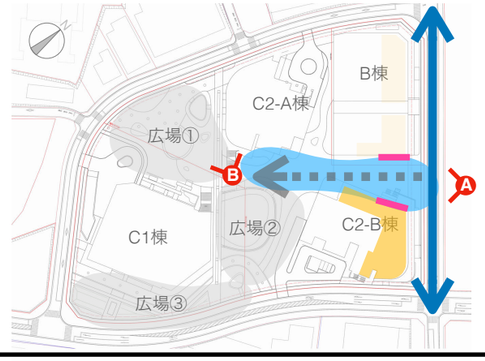


マーケットへの参加



木立の下での憩いや飲食

KEYPLAN



マーケットドック（広場④）
施設
東神奈川まち・海軸
まち・海軸から中央への誘因
道路から16m以内の建築1階部分
パース視点

【建築物等の形態意匠の制限】

3-(3) 広場4に面する1階部分で、道路からの水平距離が16m以内の部分には、屋外から建築物内部の活動や賑わいが望めるように、開口部又はテラスを設けるものとする。ただし、住宅等又は自動車車庫その他の専ら自動車若しくは自転車の停留若しくは駐車のための施設（誘導車路、操車場所及び乗降場を含む。）の用途に供する部分を除く。

4-(1) 建築物は、地区内の視認性及び回遊性を高めるため、広場1、広場2、津波避難デッキへ通ずる階段で広場4の西側端部に面するもの、並びに広場1又は広場2に面する建築物の広場1又は広場2に面して設ける1階及び2階の開口部と広場4の西側端部の間に、見通しを阻害するものを設けないものとする。

4-(2) 建築物は、地区内の視認性及び回遊性を高めるため、広場4の西側端部と東側端部の間に通行及び見通しを阻害するものを設けないものとする。ただし、用途上、機能上やむを得ないと市長が認める場合は、この限りではない。

歴史の道 -歴史を継ぎ、未来へつなぐ散策路-

かつて神奈川台場へと続く東取渡り道があった場所を、歴史の広場へと導く「歴史の道」として整備します。
舗装には年表サインや遺構を配置し、歩みを進める中で、この場所に刻まれた歴史の変遷をたどることができます。
道沿いのベンチは、周辺の広場の賑わいを感じながらひと息つける場となり、過去と現在が重なり合う風景を味わうことができます。



道の軸線を強調するようにベンチ・高木などを並べることで、象徴的な「歴史の道」を形成します。

KEY WORD

・台場、鉄道施設の痕跡をランドスケープで可視化
・鉄道、運河、台場などの遺構の活用
・歴史散策ネットワークの一部として周辺まちづくりとのつながり

交流　歴史

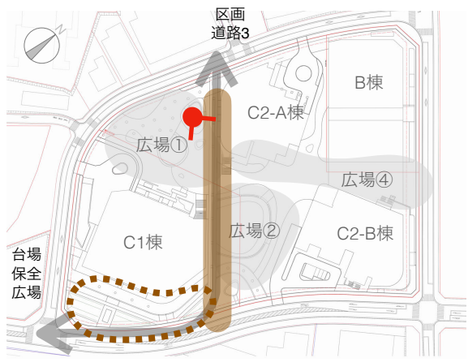
ACTIVITY IMAGE



年表のサインや遺構から地域の変遷を知る



歴史モチーフの投影など夜間の歩く楽しみを演出



KEYPLAN

- 歴史の道
- 歴史の広場（広場③）
- 歴史散策ネットワーク
- パース視点

【建築物等の形態意匠の制限】

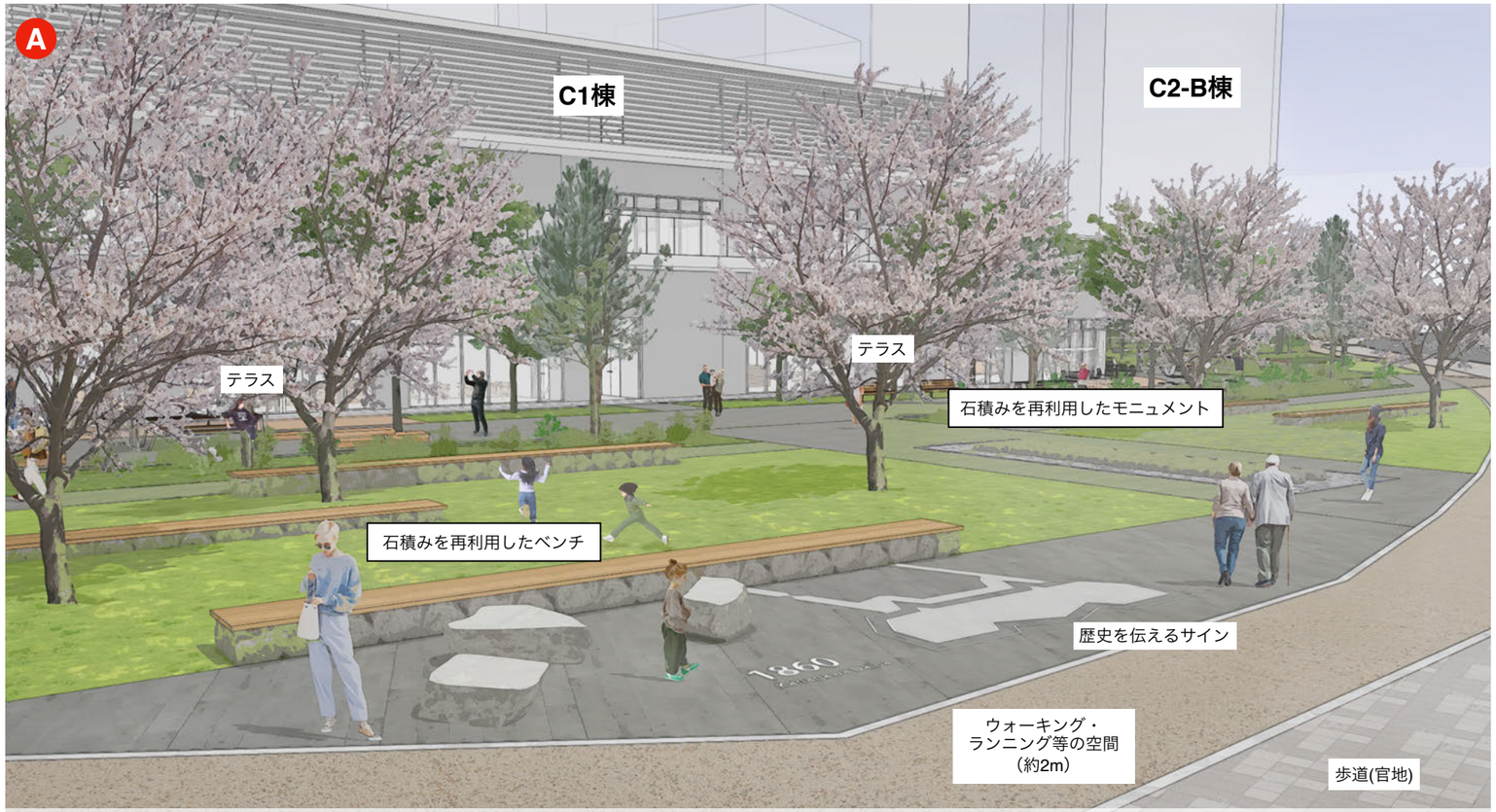
3-(2) 広場1又は広場2に面する1階及び2階部分には、屋外から建築物内部の活動や賑わいが望めるように、開口部又はテラスに設けるものとする。ただし、住宅等又は自動車車庫その他の専ら自動車若しくは自転車の停留若しくは駐車のための施設（誘導車路、操車場所及び乗降場を含む。）の用途に供する部分を除く。

4-(1) 建築物は、地区内の視認性及び回遊性を高めるため、広場1、広場2、津波避難デッキへ通ずる階段で広場4の西側端部に面するもの、並びに広場1又は広場2に面する建築物の広場1又は広場2に面して設ける1階及び2階の開口部と広場4の西側端部の間に、見通しを阻害するものを設けないものとする。

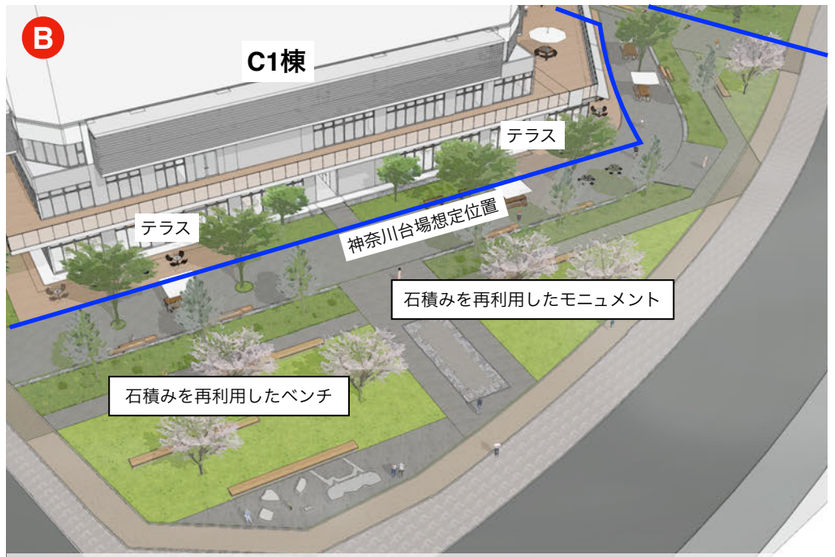
4-(3) 区画道路3の主要な道路に接する部分と広場4の西側端部の間に見通しを阻害するものを設けないものとする。

歴史の広場（広場③） -台場の記憶を継承する広場-

神奈川台場の形状や、築造に用いられていた石材を活かし、この地に刻まれた台場の記憶を継承する広場です。
かつての台場のスケールを感じられる広場に、出土した石積みを活用したベンチを配置したり、台場の歴史を床面のサインとして表現します。
人々がゆったりと過ごし、交流する日常の中で、この土地の歴史に自然と触れられる場をつくります。



広場形状は実際の神奈川台場の投影ラインを元にしており、台場の形や歴史を伝えるサインによって、訪れた人は実際の台場のスケール感を体感できます。



建物前のテラスと一体的に利用できる広場を検討します。

DESGIN IMAGES



石積みを再利用したベンチ

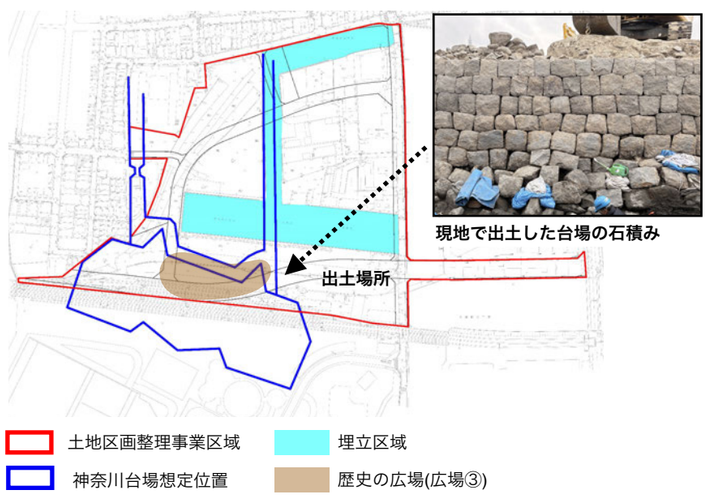
台場を支えてきた石をベンチとして再構成し、実際に座ったり触れたりできるようにします。



石積みを再利用したモニュメント

台場の石積みの配置をそのまま床に再現することで、石積みの迫力を感じられるモニュメントです。

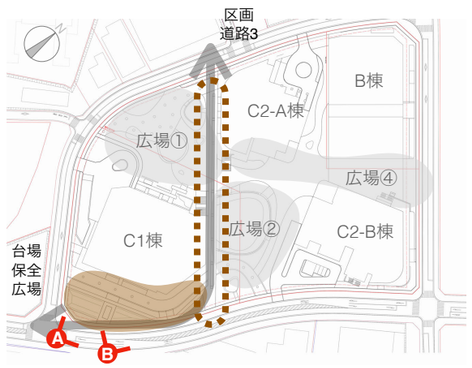
神奈川台場跡



KEY WORD

・台場の投影ラインを元にした形状
・台場の石積みを再構成
・台場の歴史を伝えるサイン、お休み処
・１F施設と一体で利用できるテラス、広場

交流　歴史

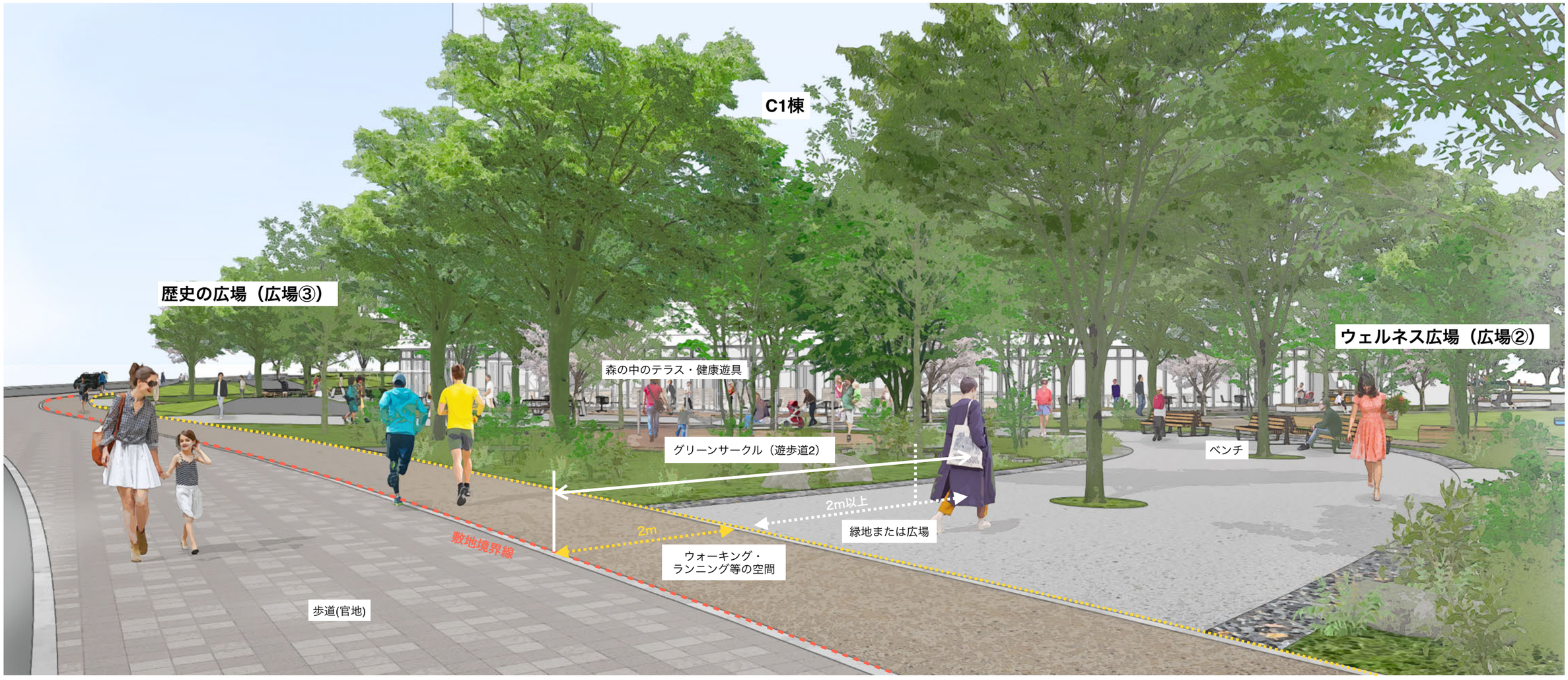


KEYPLAN



グリーンサークル（遊歩道2） -外と内をつなぐ、緑の回遊動線-

敷地外周を、散策やランニング、ウォーキングを快適に楽しめる歩行空間として整備します。
外周歩道と一体となった遊歩道に、歩きやすい舗装やベンチ、健康遊具を備え、散策や運動に適した環境をつくります。
緑が連なる動線は、誰もが気軽に立ち寄れる場となり、回遊と滞在を促しながら、この地区を象徴する景観と心身の健康を支えます。



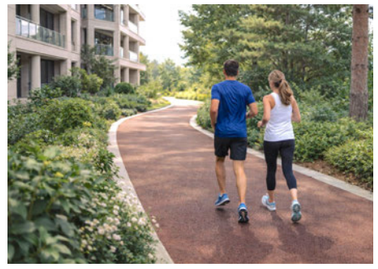
地区内を回遊できるように、敷地外周を散策やウォーキング・ランニングなどを快適に行える歩行空間として整備します。

KEY WORD

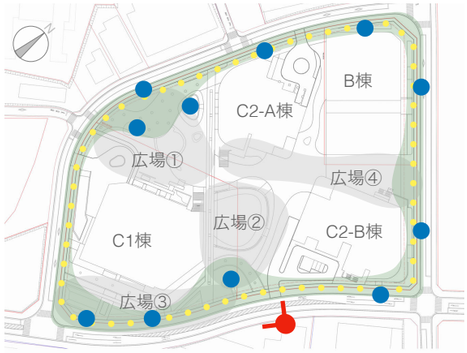
・回遊する楽しみを作り出す、身近で豊かな自然
・ウォーキング・ランニングコース
・木陰で休憩できるテラス、ベンチ
・健康づくりのきっかけとなるファニチャーや遊具を点在

交流　環境　健康

ACTIVITY IMAGE


ウォーキング・ランニングで健康づくり


季節の草花が、歩く楽しみをつくる

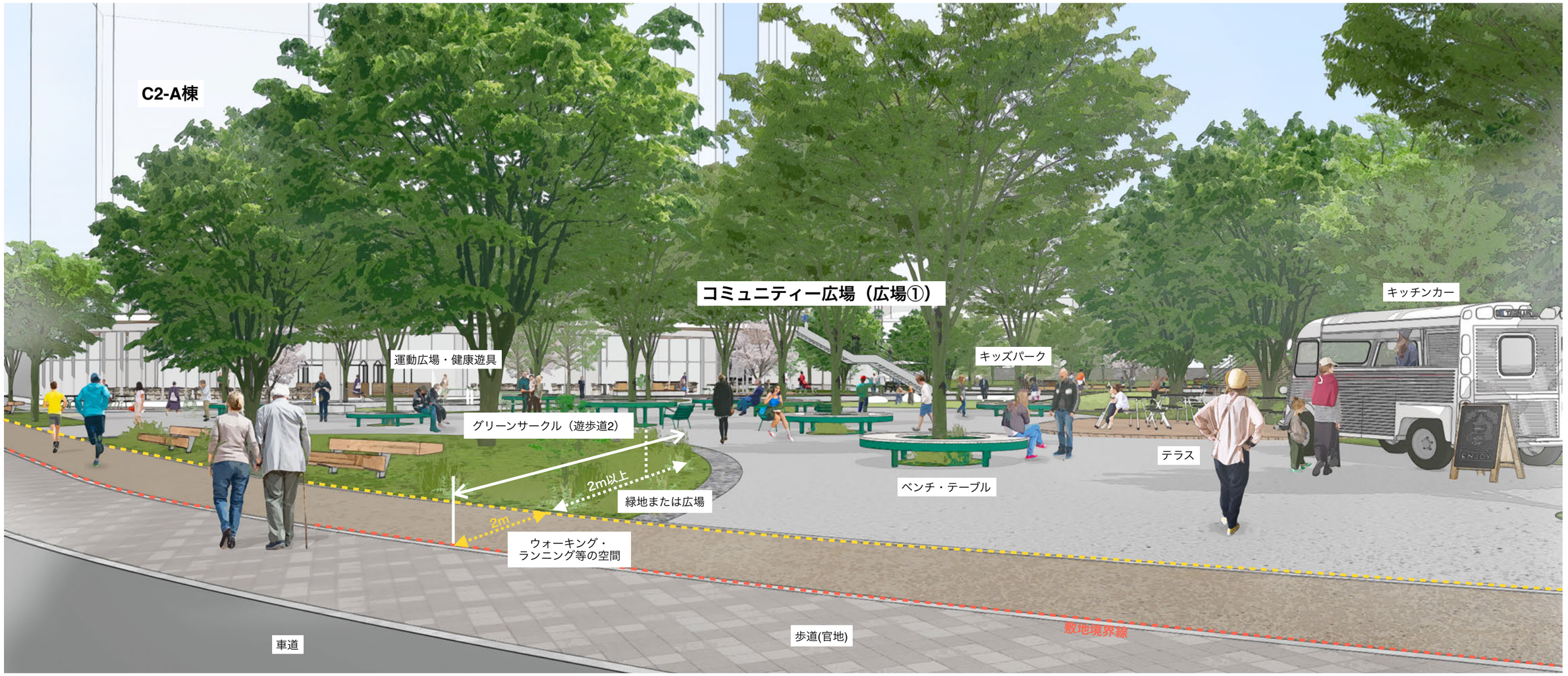


KEYPLAN

グリーンサークル（遊歩道2）
健康遊具・ファニチャー
遊歩道・歩道
パース視点

グリーンサークル（遊歩道2） -外と内をつなぐ、緑の回遊動線-

敷地外周を、散策やランニング、ウォーキングを快適に楽しめる歩行空間として整備します。
外周歩道と一体となった遊歩道に、歩きやすい舗装やベンチ、健康遊具を備え、散策や運動に適した環境をつくります。
緑が連なる動線は、誰もが気軽に立ち寄れる場となり、回遊と滞在を促しながら、この地区を象徴する景観と心身の健康を支えます。



部分的に緑の帯を広げることで歩行空間に変化を生み、歩く楽しさを高めながら、他のエリアへ人々を自然に誘導します。

ACTIVITY IMAGE

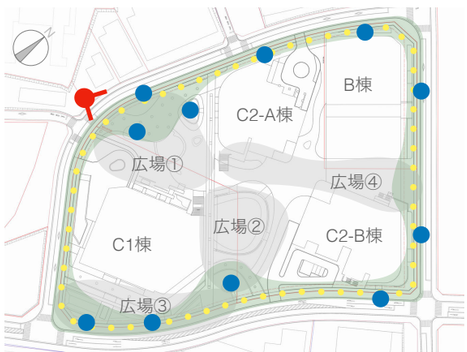

体を動かしたくなるしかけづくり


自然の中でくつろぐ・憩う

・健康遊具やファニチャー

グリーンサークル沿いには、健康づくりのきっかけとなるファニチャーや遊具を点在させ、敷地を巡りながら気軽に体を動かせる環境を整えます。

KEYPLAN



- グリーンサークル（遊歩道2）
- 健康遊具・ファニチャー
- 遊歩道・歩道
- パース視点

パース視点一覧

P24 鳥瞰イメージ



P26 コミュニティ広場（広場①）



P27 ウェルネス広場（広場②）



P28 キャナルテラス（遊歩道1）



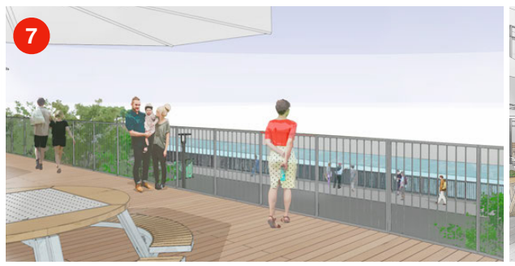
P30 キャナルゲート（広場④ 東側端部）



P30 キャナルゲート（広場④ 東側端部）



P30 キャナルゲート（広場④ 東側端部）



P31 マーケットドック（広場④）



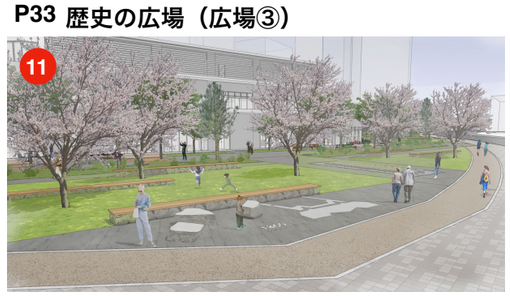
P31 マーケットドック（広場④）



P32 歴史の道



P33 歴史の広場（広場③）



P33 歴史の広場（広場③）



P34 グリーンサークル（遊歩道2）



P35 グリーンサークル（遊歩道2）



建築物等の形態意匠の制限

3−(1)
遊歩道1に面する1階及び2階部分には、屋外から建築物内部の活動や賑わいが望めるように、開口部又はテラスを設ける

3−(2)
広場1又は広場2に面する1階及び2階部分には、屋外から建築物内部の活動や賑わいが望めるように、開口部又はテラスを設ける

3−(3)
道路からの水平距離が16m以内の部分には、屋外から建築物内部の活動や賑わいが望めるように、開口部又はテラスを設ける

4−(1)
広場1、広場2、津波避難デッキへ通ずる階段で広場4の西側端部に面するもの、並びに広場1又は広場2に面して設ける1階及び2階の開口部と広場4の西側端部の間に、見通しを阻害するものを設けない

4−(2)
広場4の西側端部と東側端部の間に通行及び見通しを阻害するものを設けないものとする

4−(3)
区画道路3の主要な道路に接する部分と広場4の西側端部の間に見通しを阻害するものを設けないものとする

8
運河に面する手摺の構造は、水辺の眺望を確保するため、手摺子の間隔を広げ、又は透過性のある素材とする

9
賑わいの連続性を確保するため、階段を視認性に配慮した位置に設ける

KEYPLAN

